

## II. 事業（取組）の概要 （当年度事業計画・MP戦略ごとの取組状況等）

### 1. MPに基づくAP（アクションプログラム（単年度行動計画））の実施状況

MP の計画実現性向上・成果創出のために、MP に基づく AP を策定し、全学的に実行しています。これらの当年度の実施状況は下表のとおり、全体の約 8 割（83.1%）が「80%以上の目標達成」となりました。

なお、進捗度が 50%未満の取組を中心として、各セクションがその阻害要因、今後の解決方策等を、自主・自律的に明らかにし、設置校別に報告・検討会（AP 発表会）を行い、確実な改善に繋げることをとしています。

#### 7年度APの部署等別実施状況

部署等名	事業等数 (レビュー対象)	進捗度別 事業等数		
		100-80%	79-50%	50%未満
工学部	36	32	2	2
情報工学部	26	20	6	0
社会環境学部	14	14	0	0
教養力育成センター	12	12	0	0
工学研究科	27	23	3	1
社会環境学研究科	3	3	0	0
総合研究機構	11	8	3	0
短大学科	21	16	2	3
〃 事務室	5	1	2	2
高校課程	29	25	2	2
〃 事務室	3	2	1	0
大学事務局	97	80	13	4
合計	284	236	34	14
進捗度別比率	100.0%	83.1%	12.0%	4.9%

（令和 7 年度 MP・AP の取組状況のまとめについては、別添「VISION・MP・AP 実施状況点検報告書」参照（令和 8 年 7 月頃 HP で公表予定））

## 2. 大学のMP戦略ごとの具体的な実施状況

### (1) 重点方針Ⅰ（福岡から世界へ羽ばたく実践型人材の育成）

#### ・新たな教育改革・改善活動の全学的推進（教育開発推進機構の取組）

##### ①基本的考え方

教育開発推進機構では、教育の質保証、教育能力の開発および向上、教育プログラムの開発と支援の取組を一体的に進め、全学的な教育改革・改善に取り組んでいます。機構内には、カリキュラム等の教育の質保証および質向上を担う「教学マネジメント部門」と、教育改革の方針に係る企画立案およびその実施を担う「教育イノベーション部門」を設置し、両部門が連携しながら取組を進めています。こうした体制のもと、学生の学びと成長を重視した教育改革の推進を図っています。

##### ②取組状況

#### 1) 教育改革

教育改革においては、新たなディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）に基づき、学修成果を具体的な能力・資質として整理し、学修者本位の教育の実現に向けた取組を進めています。あわせて、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程の編成・実施を通じて、ディプロマ・ポリシーに示す学修成果の達成につながる教育の充実を図っています。

また、学生の主体的・自律的な学修を促進するため、学習ポートフォリオ「FIT-AIM」を活用し、学修の振り返りと目標設定の機会を提供しています。さらに、横断科目「Future Vision 講座」の開講や課題解決型学修の実施により、学部横断および他大学との協働による学修機会の拡充を図っています。

加えて、数理・データサイエンス・AI 教育を全学的に展開するとともに、産業界の実務人材を活用するインダストリー教授制度を導入し、実社会と接続した教育機会の創出に取り組んでいます。

#### 2) 教育の質保証

教育の質保証については、3つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）に基づき、教育課程、授業科目、学生・学修の各レベルにおけるプロセスと成果を総合的に点検し、その結果を教育改善および学生の成長支援に活かしています。教育点検では、点検結果を踏まえた意見交換等を通じて改善の方向性を整理し、学部・学科の取組につなげています。

また、学生によるカリキュラムレビューや学生参画型の教育支援活動を通じて、教職員と学生が協働した教育改善を推進しています。加えて、FD 活動や教員表彰制度「FIT 教育賞」等を通じて、教育実践の共有と教員の教育力向上を図っています。

学生アセスメントとして、「学びの振り返りアンケート」やアセスメントテスト（PROG テスト）等を実施し、学生が自身の学修状況を把握し振り返りに活用できる仕組みの整備を進めています。

##### ③評価・課題認識

教育改革および質保証の取組は着実に進められていますが、学生の主体的な学びの定着や、学修成果の可視化を教育改善や学生の成長により効果的につなげていくことについては、引き続き課題として認識しています。

特に、FIT-AIM や各種アセスメント等によりデータの蓄積は進んでいるものの、それらの分析と活用の在り方については、さらなる検討が必要な状況にあります。

また、教育手法のデジタル化の推進や、社会と接続した教育機会の拡充、産業界や他大学との連携の深化についても、今後の課題として位置づけています。

#### ④課題解決方策

これらの課題に対応するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づく教育の実践を進めながら、カリキュラムの体系的な整備と分野横断的な学びの充実に取り組みます。また、教育点検等を通じて把握した状況や課題を学部・学科と共有し、教育改善に活用していきます。

さらに、FIT-AIM を活用した目標設定と振り返りの取組を継続し、アセスメントテスト等と組み合わせることで、学生の主体的・自律的な学修の定着を図ります。加えて、教育実践の共有や FD 活動の充実に通じて、教員の教育力向上を図り、教育の質向上に引き続き取り組みます。

#### ⑤課題解決後の未来の姿

これらの取組を通じて、学修成果の可視化と教育改善への活用が進み、学修者本位の教育がいつそう展開されていきます。学生は、学修の振り返りと目標設定を重ねながら主体的に学び、多様な背景を持つ他者と協働して課題に取り組む力を身につけていくことが期待されます。その結果として、幅広い教養と専門性に加え、デジタル力を備えた実践型人材の育成が進み、社会の変化に対応できる人材の輩出につながっていきます。

### ・学生の主体的・自律的な学習活動の支援（学習支援センターの取組）

#### ①基本的考え方

学習支援センターでは、第 10 次マスタープランに基づき、学生の主体的・自律的な学びを支援する全学的な学修支援拠点として、入学前教育、基礎講座、学習相談（FIT-in サポート）を一体的に運用しています。これにより、入学前教育から正課授業、学修支援へと連続的に接続する支援体制の構築を目指しています。

#### ② 取組状況

入学前教育では、対象学生全員に対して受講を強く促したこと等により、専願入試合格者の講座申込率は 98.9 %に達しました。これにより、入学前段階における基礎学力の底上げと学習習慣の形成が図られています。

基礎講座（前期・後期）では、前期は新生オリエンテーション期間中に実施した習熟度調査の結果を基に受講対象者を選出し、数学およびレポート・スキル講座を開講しました。しかし、当年度の受講者の出席率改善にはつながらず、関連科目の合格率も 71.4 %と目標（85 %）に届きませんでした。特に、後期では出席率が伸び悩み、受講の意義が十分に認識されず、学習意欲の向上に結びついていない状況が見られました。

学習相談（FIT-in サポート）の年間利用者数は、5 年度の 3,838 人から 6 年度に 5,031 人へ回復し、当年度も 5,012 人と高い水準を維持しています。基礎講座や学科指導を通じた周知・利用促進が奏功し、自主的な学修支援の場として定着が進んでいます。

#### ③評価・課題認識

入学前教育の高い受講申込率および FIT-in サポートの利用状況から、これらの取組は安定的に機能しており、学修支援の基盤として着実に定着していると評価できます。

一方、基礎講座については、出席率および関連科目の合格率が目標に達しておらず、学修成果への接続に課題が残っています。

特に、学生が学習計画を主体的に立案・遂行する力（自己調整学習力）の育成や、正課授業との連携の在り方に改善の余地があります。また、学科間で活用状況に差が見られる点も課題として認識されます。

#### ④課題解決方策

今後は、入学前教育・基礎講座・FIT・in サポートの連動をいっそう強化し、学生の学習状況に応じた継続的な支援体制の整備を進めます。

具体的には、習熟度調査や入試結果等のデータを活用し、基礎講座の内容と正課授業との接続性を高めることで、学修成果の向上に資する支援へと改善を図ります。また、FIT・in サポートの活用をいっそう促進し、個別支援の充実とともに、学修支援の全学的な均質化を推進します。

#### ⑤課題解決後の未来の姿

学習支援センターの運営体制をいっそう強化することで、学生が安心して学べる質の高い学習環境を整備します。これにより、学生の主体的な学びを促進し、学修成果の向上を図ります。

さらに、学生同士が学び合うラーニング・コミュニティの形成を推進し、協働的な学習文化の定着を目指します。これらの取組を通じて、学生一人ひとりが自ら考え行動し、将来のキャリア形成に必要な基盤を着実に築くことができる、持続的かつ実効性のある学修支援体制の確立を目指します。

### ・学生ケア・ドロップアウト抑制の取組

#### ①基本的考え方

本学では、学生の学修継続と修業年限内での卒業を支援するため、学生ケアを重要な教育施策と位置づけています。履修登録時（前期・後期）のサポート、授業出席状況に基づく早期・継続的な支援、各種オリエンテーションによる支援を重点施策とし、関係部署が連携した一体的な支援体制を構築しています。これにより、単位取得や進級・卒業に向けて、学生一人ひとりの状況に応じた継続的な支援を実施しています。

#### ②取組状況

履修登録時のサポートでは、履修登録時の指導により履修計画の適正化を図りました。授業出席状況に基づく支援では、授業開始後の早期段階から多欠席者を抽出し、面談やご父母への連絡により対応しました。その結果、6週目時点での出席改善率は39%（前年度比+8ポイント）となりました。

また、各種オリエンテーションの実施に加え、単位不足者や留年者に対する支援、学生相談室との連携による多面的な支援を継続的に実施しました。

これらの取組により、退学率は2.61%（目標3%以内）と目標を達成しており、留年率についても概ね目標水準を満たしています。修業年限卒業率は78.0%で、前年度（78.3%）と同水準を維持したものの、目標（80%）には至っていません。

なお、退学率の低減および出席改善率の向上といった点から、早期ケアの取組については一定の成果が確認されています。

#### ③評価・課題認識

早期ケアの取組は着実な成果を上げている一方で、新入生を中心に、出席状況に問題がないにもかかわらず成績不振となる学生が見られるなど、新たな課題が顕在化しています。このため、出席状況に依拠した従来の支援だけでは十分とは言えず、学修理解や大学生活への適応状況を含めた多面的な把握に基づく支援への転換が求められています。

#### ④課題解決方策

今後は、学習理解度や大学生活への適応状況を早期に把握する仕組みを導入し、新入生段階からの支援強化を図ります。

具体的には、アンケート調査や面談情報等を活用し、学生の状況を多面的に把握するとともに、教

員および関係部署との情報共有をいっそう強化し、支援が必要な学生への早期かつ適切な対応を実現します。

また、学習支援センターとの連携を強化し、学修支援と学生ケアを一体的に運用することで、より実効性の高い支援体制を構築します。

### ⑤課題解決後の未来の姿

出席状況に加え、学修理解や大学生活への適応状況を踏まえた多面的な把握に基づく学生ケアが全学的に定着し、早期対応による学修継続の安定化が図られます。

これにより、成績不振の未然防止と修業年限内卒業の実現に向けた支援がいっそう強化されます。また、学修支援との連携を通じた一体的な学生支援体制の確立により、本学の教育力の向上と、社会から信頼される人材育成機能の強化につなげていきます。

## (2)重点方針Ⅱ（九州をリードする研究成果の創出）

### ①基本的考え方

総合研究機構では、研究活動の高度化および研究成果の社会還元を推進するため、研究環境の整備、研究活動に対する支援、研究費獲得支援、知的財産管理、産官学連携の推進等を通じた総合的な研究支援体制を構築しています。

また、国・社会から求められる研究の高度化および成果の社会還元を踏まえ、研究シーズの公開、共同研究・受託研究の推進、研究機器・施設の整備および学外開放等に取り組むとともに、研究成果の社会実装や大学発スタートアップ創出の推進を通じて、社会的価値の創出を図っています。

### ②取組状況

7年度の外部資金の獲得状況は、第10次マスタープラン目標額270,000千円に対して173件・259,546千円（達成率96.1%）であり、高い水準を維持しています。

そのうち、産官学連携による外部資金は、目標額150,000千円に対して174,677千円（前年比133%、達成率116.3%）となり、目標を大きく上回っています。共同・受託研究契約件数も56件となり、過去最高水準に達しています。また、1件当たり3,000千円を超える共同研究が25%を占めるなど、研究の大型化・高度化が進展しています。

これらの成果には、教員（研究者）一人ひとりの研究ステージに応じた個別対応型の支援や伴走支援の実施、ならびに産学連携プロデューサーによるオーダーメイド支援の推進が寄与していると考えられます。

一方で、科学研究費補助金（科研費）は、採択総数57件（うち新規11件）、交付額84,869千円（分担者分含）となり、新規採択率は14.3%に留まるなど、近年では実績が低調に推移しています。

なお、研究支援制度としては、7年度に総額24,830千円・88件の支援（科研費申請、学術論文・研究計画書作成等）を実施し、教員および学生の研究活動を体系的に支援しています。

### ③評価・課題認識

外部資金は産官学連携を中心に高い水準を維持しており、共同・受託研究の件数増加や研究の大型化の進展など、組織的な研究推進の成果が確認できます。

また、研究成果の社会実装や大学発スタートアップ創出の取組も進展しており、研究成果を社会へ還元する機能は強化されているものと評価しています。

一方で、科研費については採択件数・交付額が低調であり、新規採択率も目標に達していないなど、基盤的研究力に課題が見られます。

その結果、7年度は科研費実績の低迷を産官学連携による外部資金で補う構造が見られ、本学の強みと課題がより明確になっています。

以上から、本学の研究活動は産官学連携において強みを有する一方で、科研費採択実績の向上を中心とした基盤的研究力の強化が重要な課題であると認識しています。

#### ④課題達成方策

科研費採択実績の向上を中心として、基盤的研究力の強化に取り組むとともに、申請段階から採択後までを見据えた研究支援を強化します。具体的には、外部専門機関を活用した研究計画書作成支援や事務室によるレビュー、個別面談等を通じて、研究計画の質の向上を図ります。

また、教員（研究者）の研究時間の確保に向けて、会議体の見直しやバイアウト制度の活用促進、研究関連事務の支援体制の強化等に取り組み、研究環境の改善を進めます。

産学連携プロデューサー等による支援を通じて、共同・受託研究の拡大および大型化を推進するとともに、研究成果に基づく社会実装・スタートアップ創出を継続して支援します。

研究成果のオープンアクセスおよび研究データ公開に関する支援体制の整備を進めるとともに、研究セキュリティ・インテグリティ確保等、研究活動に伴う全学的リスクマネジメントの強化に取り組みます。

#### ⑤課題解決後の未来の姿

これらの取組により、科研費をはじめとする競争的研究資金の採択力が向上し、研究活動の基盤が強化されます。産官学連携による研究活動のさらなる拡大および研究の大型化が進展するとともに、研究成果の社会実装および大学発スタートアップ創出が継続的に推進されます。また、研究成果の発信力と利活用が高まることにより、社会還元の実効性がいっそう向上します。

その結果として、本学においては、基盤的研究力と社会実装力が両立した研究推進体制が確立され、研究活動の高度化と社会還元が進展するとともに、研究分野におけるプレゼンスの向上につながる事が期待されます。

### (3) 重点方針Ⅲ（就職力日本一）

#### ①基本的考え方

入学から卒業まで一貫した体系的・系統的なキャリア教育を通じて、「実践型人材」の育成を図っています。キャリア関連科目ではアクティブラーニングを基軸とし、課題解決型の企業・学内インターンシップ（就業体験）を正課・課外の両面で展開することで、実社会での実践力の向上を図っています。

また、就職・就活対策講座、面接指導、産業界研究フェア、学内企業説明会、ご父母等ガイダンス、経済的支援などにより、学生の進路選択を多面的に支援し、「就職 100 %・満足度向上」を目指した一体的な支援体制を整備しています。

#### ②取組状況

企業の採用活動が早期化・多様化する中、本学ではキャリア教育と就職支援を一体的に推進し、学科と連携した個別支援の強化を図っています。

7年度の就職指標は、「就職日本一」を標榜するに相応しい結果となっています（就職率：学部 99.9 %、大学院 100 %、短大 100 %、実就職率：学部 98.3 %、大学院 100 %、短大 93.8 %）。また、上場・大手中堅企業の就職シェアは学部 76.9 %、大学院 91.7 %と、目標（学部 70 %、大学院 90 %）を上回る水準となっています。

さらに、学内企業説明会やインターンシップフェア、業界研究会、OB・OG との交流などの取組により、学生の企業理解と進路意識は段階的に深化しています。その結果として、第一志望企業内定率 72.9 %、就職先満足度 70.4 %と、一定の水準を維持しています。

### ③評価・課題認識

就職率および就職先満足度は高水準を維持しており、キャリア教育と就職支援を一体的に推進する取組は、一定の成果を上げていると考えられます。

一方で、著名企業 400 社への実就職率は 9.7 %にとどまっており、目標（15.0 %以上）との差が見られることから、上場・大手企業群との接点拡充およびマッチング精度の向上が課題となっています。大学院における専門技術職就職シェアについても、さらなる向上が求められます。

加えて、採用活動の早期化に伴い、インターンシップを起点とした進路選択が一般化する中で、学生の準備状況や企業理解に差が生じ、そのことによるミスマッチのリスクへの対応が必要となっています。

また、就職支援プログラムへの参加は一定水準にあるものの、各種ガイダンス等への関与にはばらつきも見られ、学生の主体的な取組を促す支援の在り方について、検討を深めていく必要があります。

### ④課題達成方策

第 10 次マスタープランに基づき、著名企業 400 社への実就職率 15.0 %以上および大学院専門技術職就職シェア 80.0 %以上の達成を目標として、就職支援の充実を図ります。

具体的には、9 年度の学部改組等を踏まえ、半導体・デジタル・グリーン分野などの成長産業や著名企業との接点を拡充し、企業交流会や企業訪問等を通じて、学生が多様な企業と接する機会の充実を図ります。

また、教学 IR データの活用により学生の特性や学修状況を踏まえた支援の高度化を進めるとともに、学科別担当者制による継続的な個別支援を通じて、学生一人ひとりの志向に応じた進路選択を支援します。

さらに、インターンシップフェアや業界研究フェア等の取組を有機的に連携させ、企業理解から選考への移行を円滑化し、一貫した支援体制の強化を図ります。これらの取組により、学生の主体的な進路形成を促進し、目標指標の着実な達成につなげます。

### ⑤課題解決後の未来の姿

成長産業および著名企業との接点拡大により、学生が自身の志向や能力に応じた進路選択を行う環境の充実が期待されます。その結果として、就職実績の量的水準の維持に加え、進路内容のさらなる充実が見込まれます。

また、キャリア教育と就職支援の連携がいつそう進展することにより、学生の主体的な進路選択が促され、就職後の定着や活躍にもつながることが期待されます。

さらに、地域産業への人材供給の進展と大学に対する評価の向上が相互に作用することで、教育成果と社会的評価が高まる好循環の形成が期待されます。

## (4) 重点方針Ⅳ-1 (グローバル化の推進)

### ①基本的な考え方

経済・産業・学術研究のグローバル化に的確に対応するため、「FIT Global Vision for 2026」を策定し、教育・研究の国際的協働を推進しています。

すべての学生が多様な価値観を理解し、異なる文化的背景を持つ人々と協働できる力を身につける

ことを重視し、国際社会において主体的に行動できる人材の育成を目指しています。その実現に向け、「国際適応力を有する人材の育成」「海外大学との交流・連携の強化」「地域の発展とグローバル化への貢献」の3つのビジョンを掲げています。

これらのビジョンに基づき、6つの重点戦略\*を展開し、教育課程と連動した国際教育の体系化や実践的な学修機会の提供を通じて、グローバル人材の育成に取り組んでいます。

\* i) 国際適応力の指標確立、ii) 英語での専門教育の高度化、iii) グローバル企業への就職支援、iv) 研究連携先の開拓、v) 正課科目と連動した海外プログラムの構築、vi) グローバル PBL による国際連携の促進

## ②取組状況

7年度に13機関と新たに協定を締結し、海外協定校は55大学・機関に拡大しました。協定校への学生派遣は229名、学生受入は316名となり、国際交流基盤の充実が進展しています。交換留学、短期研修、グローバル PBL、海外インターンシップ、オンライン留学等を体系的に展開し、学生が段階的に海外経験を積む機会を整えています。

また、「Global Challenge Program」(4年間一貫国際プログラム)を中核として、協働学習や海外研修、プロジェクト型学習を組み合わせせた教育課程と連動した国際教育を推進しています。

語学支援については、日本人学生に対してはGSL(Global Student Lounge)を拠点として、英語学習支援や留学生との交流機会の提供等を行っています。留学生に対しては、留学生別科を基盤とした受入れに加え、日本語学習支援や進学支援を実施し、受入から修学、進学に至る支援体制の構築を進めています。

## ③評価・課題認識

国際交流の拡大やプログラムの整備により、グローバル化にむけた取組は着実に進展しており、学生が国際経験を積む機会は広がっています。

一方で、個別プログラムは充実しているものの、教育体系としての一貫性や学修成果との接続には、なお課題が残されています。海外経験を学修成果として定着させる仕組みの強化が求められます。

語学教育についても、GSLを中心とした支援体制は機能しているものの、正課教育との接続や到達度評価の仕組みは十分とはいえません。

また、留学生教育においても、日本語教育を含む正課の整備は途上にあります。加えて、正規留学生比率(1.08%)や学生派遣比率(5.04%)は十分とはいえず、取組のいっそうの拡大が課題となっています。

## ④課題解決方策

グローバル化の推進にあたっては、海外連携、教育プログラム、語学支援を一体的に捉えた全学的な協働体制を強化し、教育環境の整備を進めます。

海外協定校との連携については、交流・連携の幅を広げ、学生交流や教育連携の機会の拡充を図ります。

学生派遣については、正課教育との連動を強化し、長期留学や実践型プログラムへの接続を進めることで、参加機会の拡大を図ります。

語学教育および国際教育プログラムについては、内容の充実と運用の見直しを進め、学修成果の向上につなげます。

留学生受入については、留学生別科を基盤とする日本語教育の体系化や進学支援の充実を図るとともに、受入体制の整備を進めます。

## ⑤課題解決後の未来像

これらの取組を通じて、「FIT Global Vision for 2026」に基づくグローバル化を着実に推進し、国際的視野と実践力を兼ね備えた人材の育成を図ります。

また、海外協定校との交流や教育連携の充実により、学生の学修機会の質的向上が期待されるとともに、地域におけるグローバル化の推進にも寄与することが見込まれます。

これにより、地域社会との連携がいつそう強化され、本学の教育の特色がより明確になるとともに、持続的な発展につながることを期待されます。

## (5)重点方針Ⅳ-2（社会連携の推進）

### ①基本的な考え方

本学は、社会連携・地域貢献に関する方針として「産官学連携」「地域社会との協働」「国際社会への貢献」を掲げ、教育・研究資源の社会還元や多世代に対する学習機会の提供を通じて、地域社会との共生・共創を推進しています。

また、第10次マスタープランにおいては、「地域に選ばれる学園」の実現に向け、社会連携機能の充実を進めています。

これらを実現するためには外部機関との連携が不可欠であることから、学術支援機構のもとに社会連携や教育支援に関わる各部署を配置し、教育・研究・社会貢献を一体的に推進しています。

### ②取組状況

自治体・企業・教育機関等との連携協定は31件に達しており（7年度は福津市、武庫川女子大学と締結）、地域社会との継続的な協働体制のもと、地域課題の解決および人材育成に資する各種事業を展開しています。自治体との連携では、福岡市との災害ボランティアセンター設置や新宮町との水生生物調査等の具体的事業を通じて、地域課題の解決に向けた取組を進めています。（詳細 P.42 参照）

社会連携センターでは、公開講座（FIT オープンカレッジ 139 講座開講、1,185 名受講）および履修証明プログラム（2 講座）を実施しています。FIT オープンカレッジでは、地域防災や地域経済活性化をテーマとする講座を設け、地域課題に対応した人材育成の機能を担っています。

附属図書館では一般開放を継続し、年間 20,352 人の利用実績を有するとともに、企画展示等を通じて学術資源の発信に努めています。

モノづくり分野においては、サイエンスフェスタや出前講座等を実施し、年間 29 件、延べ 3,474 名が参加するなど、地域の児童・生徒を対象とした体験型学習の機会を提供しています。

さらに、施設見学（延べ 1,539 名）や中学校職場体験を含む各種受入を行い、地域の教育機関との連携を通じた実践的な学びの機会の提供を進めています。

### ③評価・課題認識

社会連携・地域貢献活動を継続的に実施することにより、地域社会との接点は維持・拡大しており、実社会を活用した教育機会の提供および地域課題への対応において、その機能が発揮されています。

特に、公開講座や体験型学習の機会の提供、図書館の地域開放等を通じて、多世代に対する学習機会の提供が進んでいます。また、各部署が連携して取り組むことにより、教育活動と社会連携との結びつきも強まっています。

一方で、連携先の拡大に伴う地域ニーズの多様化に対応するため、学内資源との適切なマッチングや事業の重点化が課題となっています。あわせて、活動成果の定量的把握および対外発信の強化も求められます。

#### ④課題解決方策

第 10 次マスタープランに基づき、社会連携・地域貢献活動の整理・体系化を進め、事業運営の効果向上を図ります。

具体的には、地域ニーズと本学の教育・研究資源との対応関係を整理し、連携事業の重点化を推進します。あわせて、活動実績や満足度等に関する指標を整備し、取組の可視化および対外発信の強化を進めます。

また、教育活動と連動した社会連携の在り方を整理し、実社会をフィールドとする学びの質の向上につなげていきます。

#### ⑤課題解決後の未来の姿

社会連携・地域貢献活動の充実により、教育・研究と地域社会との関係はいつそう強化され、実社会と接続した教育機会のさらなる充実が期待されます。

また、地域との協働による取組の定着を通じて、地域課題の解決と人材育成が一体的に進展し、本学の教育研究機能を基盤とした社会的役割がより明確になることが期待されます。

これにより、本学は地域社会にとって不可欠な教育機関として、「地域に選ばれる学園」としての位置づけを、より確かなものとしていくことが見込まれます。

### (6) 重点方針 V (広報および募集活動の戦略的展開)

#### ①基本的考え方

MP で掲げた諸施策（広報および募集活動の質的転換（志願倍率九州 1 位、偏差値向上等）、入試制度改革等）の具現化と成果創出の度合いを高め、大学としての評価向上につなげるとともに、その内容を適切に情報発信することで、入学志願者の安定的な確保を図っています。

近年は、SNS やウェブサイトを活用した情報発信を強化し、受験生・保護者・高校に対する多様な接触機会を確保することにより、本学の教育や学生支援の内容について理解促進を図る環境整備を進めています。

#### ②取組状況

8 年度入試は、総志願者数（延べ数）10,347 名（前年比 109.0%）、実志願者数 3,204 名（同 107.8%）となり、いずれも前年を上回る結果となりました。受験生の年内入試志向が継続する中、総合型選抜「探究」および「理工系女子」の浸透により、年内入試志願者数は 811 名（前年比 110.0%）と増加しました。一般選抜についても、年内入試の増加に伴う志願者減少が懸念されたものの、実志願者数は 2,472 名（前年比 106.3%）と増加し、年内・年明け双方において志願者数の増加が見られます。

入学者数は 1,208 名（うち女子 203 名）となり、女子比率の向上も含め、入学者目標を上回る結果となりました。

#### ③評価・課題認識

志願者数は年内・年明け入試ともに増加しており、一定の成果が得られています。これは、広報施策の強化や入試制度の多様化による受験機会の拡大が志願者の増加に寄与していると考えられます。

一方で、18 歳人口の減少や大学間競争の激化に加え、教育・研究の質向上を重視する政策への転換や理工系・デジタル分野における人材需要の高まりを背景に、大学に求められる役割や受験生の志向は大きく変化しています。

これに伴い、志願構造も変化しており、従来の延長線上の募集施策のみでは持続的な志願者確保が困難となる可能性があります。こうした状況を踏まえ、外部環境および志願構造の変化に対応した中

長期的な視点での募集戦略の再構築が必要となっています。

#### ④課題達成方策

教育・研究活動の高度化や入試制度の強化・見直しはもとより、本学の強みである「就職力（質の高い就職）」に結び付く教育および学生支援の取組を体系的に整理し、ブランド（フライト「F・LlghT」）として一体的に発信し、認知度の拡大を図ります。

9年度の工学部改組およびデジタルメディア学部の設置に伴う教育改革については、分野特性（情報・デジタル、環境、ものづくり）や育成人材像を明確に示し、受験生が入学後の学びや将来の進路を具体的にイメージできるよう情報発信を行うとともに、学生の学びや活動の様子を伝えることで、進路検討段階における関心の形成を促進します。

これらの取組により、受験生・ご父母・高校等に対する理解の促進と認知の向上を図り、志願行動につなげていきます。

#### ⑤課題達成後の未来の姿

本学の教育内容および学生支援に対する理解が進み、志願者の安定的な確保につながることを期待されます。また、外部環境の変化に対応した募集活動の高度化とブランド施策の推進により、志願構造の安定化が図られ、地域に根ざした理工系大学としての位置づけの明確化につながるが見込まれます。

さらに、工学部改組およびデジタルメディア学部の設置によって強化される教育・研究分野を基盤として、社会ニーズに即した人材育成機能を継続的に高めることで、本学の教育力に対する評価の定着と、持続的な志願者確保につながることを期待されます。

## (7) データ・指標

### ①重点方針Ⅰ（教育） <P. 23>

- 1) 学びの振り返りアンケート集計結果
- 2) 教育開発推進室の活動実績
- 3) 学習支援センター  
(FIT-inサポート)利用状況
- 4) 令和7年度奨学金・対象人数の状況
- 5) 留年判定者数一覧
- 6) 本学（大・院・短）の3つのポリシー

### ②重点方針Ⅱ（研究） <P. 30>

- 7) 外部研究費  
(科学研究費、受託研究費等)採択実績
- 8) 科学研究費採択実績
- 9) 地公体・公的機関研究費採択実績
- 10) 特許出願・登録案件一覧
- 11) 総合研究機構主催研究講演一覧
- 12) 総合研究機構主催  
研究成果発表会・技術講習会一覧
- 13) 総合研究機構の研究支援予算制度
- 14) 直近10カ年導入機器一覧

### ③重点方針Ⅲ（就職） <P. 35>

- 15) 就職率・実就職率（全体・学科別）
- 16) 規模別就職状況
- 17) 業種別就職状況
- 18) 職種別就職状況
- 19) 地区別就職状況

### ④重点方針Ⅳ（グローバル化） <P. 37>

- 20) 国外交流協定大学一覧
- 21) グローバル化教育施策一覧
- 22) 国際交流実績一覧

### ⑤重点方針Ⅳ（社会連携） <P. 42>

- 23) 自治体・企業・教育機関等との  
連携協定一覧
- 24) 社会連携PBLプログラム一覧
- 25) 社会連携センター利用学生の資格取得実績
- 26) 社会連携関連行事の開催状況
- 27) 社会連携活動の取組状況及び成果一覧
- 28) 情報基盤センター関連設備利用実績
- 29) 図書館入館者数・貸出数
- 30) モノづくりセンタープロジェクト  
大会等参加戦績
- 31) モノづくりセンタープロジェクト  
課外活動支援事業・寄贈

### ⑥重点方針Ⅴ（学生募集） <P. 49>

- 32) 募集活動別動員数の推移
- 33) 学科ごとの延べ志願者数の推移
- 34) 入学志願者数の推移（入試種別）
- 35) 入学志願者・入学者数の推移（出身県別）
- 36) 女子学生の志願者・入学者の状況

### ⑦その他 <P. 51>

- 37) 学生表彰者  
(団体表彰・個人表彰・卒業時学業成績優秀者)
- 38) 学会表彰者

# 1) 学びの振り返りアンケート集計結果

## 2025年度前期 全学（総合計）

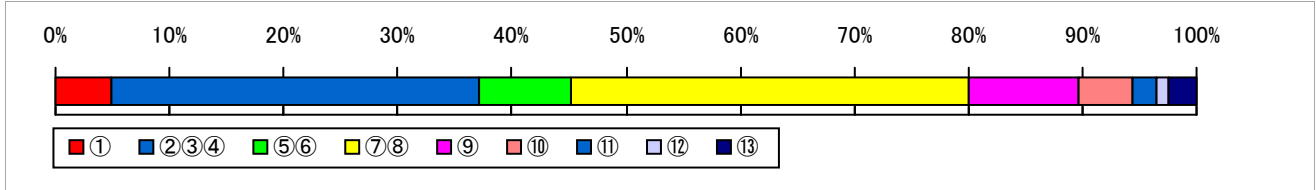
### 1. 実施概要

- (1) 実施日 2025/07/04(金) ~ 2025/07/17(木)
- (2) 対象授業 2025年度前期 全学（総合計）  
開講年期： 2025年 ~ 2025年 前期
- (3) 回答人数 18,149人 履修者：38,661人 回答率：46.94%

### 2. 集計結果

1. この授業における授業時間以外での学習時間（予習・復習、課題、自主学習等※）の合計は、1週間あたりどのぐらいでしたか。

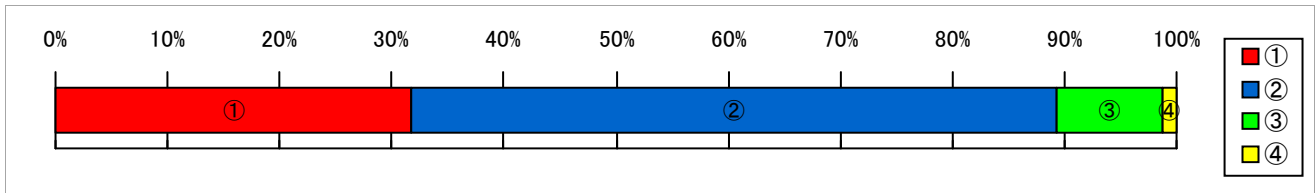
- ①0分（904人 4.9%） ②10分（902人 4.9%） ③20分（1,232人 6.7%） ④30分（3,707人 20.4%） ⑤40分（902人 4.9%）
- ⑥50分（573人 3.1%） ⑦1時間（4,731人 26%） ⑧1時間30分（1,544人 8.5%） ⑨2時間（1,753人 9.6%） ⑩3時間（854人 4.7%）
- ⑪4時間（399人 2.1%） ⑫5時間（181人 0.9%） ⑬6時間以上（466人 2.5%）



平均学習時間： 72分

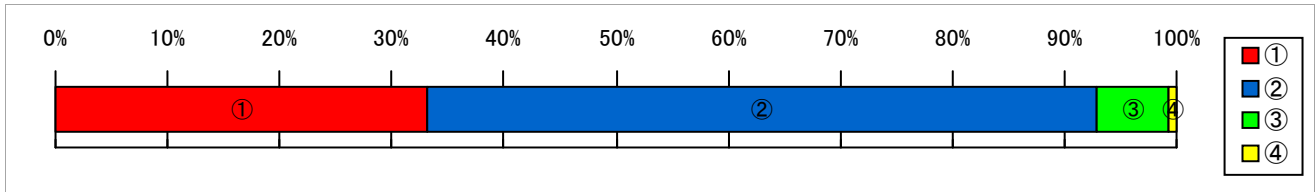
2. この授業に臨むにあたり、シラバスに明記された達成目標を意識して取り組んでいましたか。

- ①十分に意識していた（5,747人 31.6%） ②ある程度意識していた（10,438人 57.5%） ③あまり意識していなかった（1,715人 9.4%） ④全く意識していなかった（249人 1.3%）



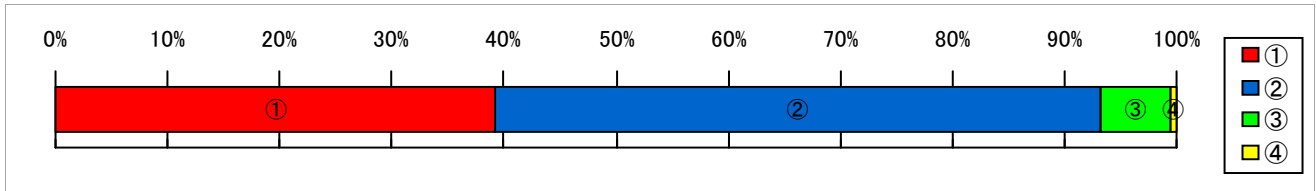
4. この授業はどの程度理解できましたか。

- ①十分に理解できた（6,031人 33.2%） ②ある程度理解できた（10,825人 59.6%） ③あまり理解できなかった（1,145人 6.3%） ④全く理解できなかった（148人 0.8%）



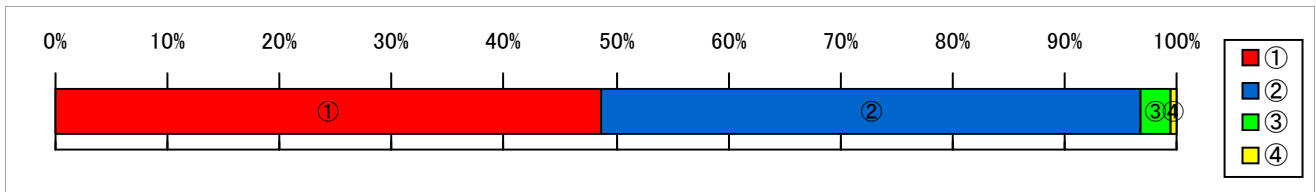
5. この授業において主体的に意欲をもって学習に取り組むことができましたか

- ①十分にできた（7,116人 39.2%） ②ある程度できた（9,789人 53.9%） ③あまりできなかった（1,143人 6.2%） ④全くできなかった（101人 0.5%）



6. この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。

- ①充分意義があった（8,833人 48.6%） ②ある程度意義があった（8,725人 48%） ③あまり意義がなかった（498人 2.7%） ④全く意義がなかった（93人 0.5%）



# 2025年度後期 全学（総合計）

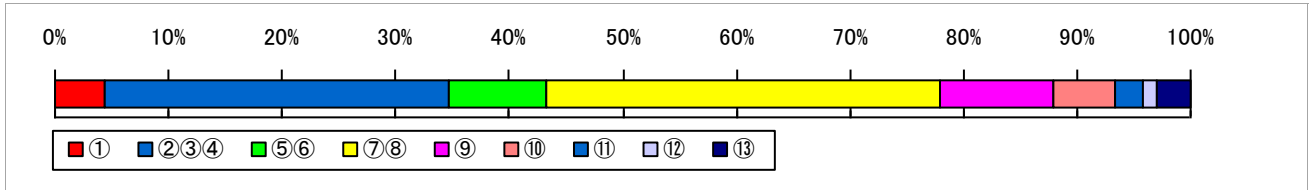
## 1. 実施概要

- (1) 実施日 2025/12/23(火) ~ 2026/01/19(月)
- (2) 対象授業 2025年度後期 全学（総合計）  
開講年期： 2025年 ~ 2025年 後期
- (3) 回答人数 12,434人 履修者：34,627人 回答率：35.91%

## 2. 集計結果

1. この授業における授業時間以外での学習時間（予習・復習、課題、自主学習等※）の合計は、1週間あたりどのぐらいでしたか。

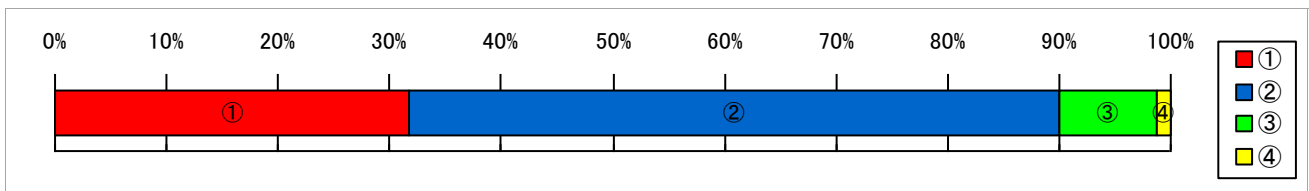
①0分（554人 4.4%） ②10分（623人 5%） ③20分（755人 6%） ④30分（2,370人 19%） ⑤40分（635人 5.1%） ⑥50分（443人 3.5%） ⑦1時間（3,236人 26%） ⑧1時間30分（1,063人 8.5%） ⑨2時間（1,243人 9.9%） ⑩3時間（672人 5.4%） ⑪4時間（318人 2.5%） ⑫5時間（147人 1.1%） ⑬6時間以上（375人 3%）



平均学習時間： 76分

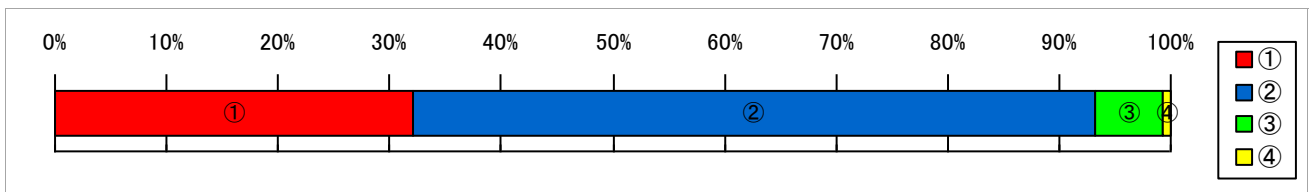
2. この授業に臨むにあたり、シラバスに明記された達成目標を意識して取り組んでいましたか。

①充分に意識していた（3,933人 31.6%） ②ある程度意識していた（7,245人 58.2%） ③あまり意識していなかった（1,098人 8.8%） ④全く意識していなかった（158人 1.2%）



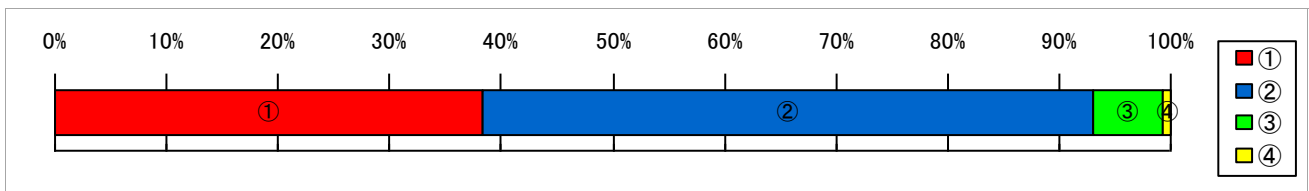
4. この授業はどの程度理解できましたか。

①十分に理解できた（4,000人 32.1%） ②ある程度理解できた（7,593人 61%） ③あまり理解できなかった（751人 6%） ④全く理解できなかった（90人 0.7%）



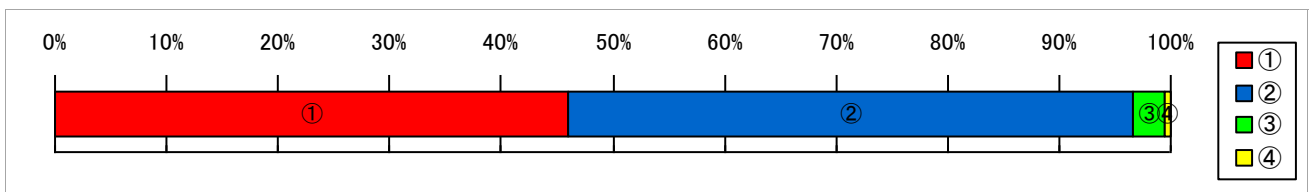
5. この授業において主体的に意欲をもって学習に取り組むことができましたか。

①充分にできた（4,759人 38.2%） ②ある程度できた（6,794人 54.6%） ③あまりできなかった（791人 6.3%） ④全くできなかった（90人 0.7%）



6. この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。

①充分意義があった（5,706人 45.8%） ②ある程度意義があった（6,290人 50.5%） ③あまり意義が無かった（352人 2.8%） ④全く意義が無かった（86人 0.6%）



## 2) 教育開発推進室の活動実績

### ①令和7年度の主な活動

活動名	活動内容（開催時期、活動の目的等）	
新DPに沿った教育の実践と革新	R7年度～	建学の理念と社会のニーズを踏まえて新たな全学ディプロマ・ポリシー（DP）を策定。DPは測定可能な要素に分解し、正課・課外を通じて育成する共通コンピテンシー（FIT力）として明示
横断科目の開講	R7年度～	横断科目として「Future Vision講座（Python基礎とデータ処理入門）」と「Future Vision実践（SDGs探究）」を新設。前者は応募多数から30名を選抜し基礎的なデータ処理力を育成。後者は他大学学生を含む20名が協働し、課題解決と探究力の向上を図った。
「福岡工業大学インダストリー教授」制度の導入	R7年度～	インダストリー教授制度を導入し、産業界の実務経験者を招へい。最新の業界知識を教育に反映し、産学連携やキャリア形成を促進。R7年度の特別講義では「みんなの銀行」の頭取を迎え、金融DXを題材に、学生がデータ分析と新サービスの企画に取り組み、実践的な学びを深めた。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム	R4年度～	文科省が推進する左記プログラム認定制度に基づき、リテラシーレベルの全学共通科目として令和4年度に「AIデータサイエンス基礎」を開講。また、より専門的な応用基礎レベル教育プログラムを同5年度に工学部と情報工学部、同7年度に社会環境学部で導入した。
教員表彰制度「FIT教育賞」	R6年度～	「グッドプラクティス部門」、「グッドカリキュラム部門」、「実践力育成部門」の3つの部門を設け、教育改善に貢献した教員4名を表彰
新任教員FD研修会	R7. 4. 4 R7. 8. 27	4月に「新任教員FD研修会」、8月には「新任教員フォローアップ研修会」を開催。新任教員が本学の教育の特色を理解した上で、本学教員としての心構えを持ち、教育に取り組むことを目的に開催
教学マネジメント委員意見交換会	R7. 10. 29	評価・推進部会構成員が所属組織を越えて、教育改善について課題認識を共有。FD活動の充実を目的に、「データで見る福工大生の姿」と「14週授業の在り方」の2テーマで意見交換を行った。
学部表彰	R8. 4. 7	学業優秀者や学部が推奨する資格取得者等を表彰する制度。R7年度は、「優秀学生表彰」195名196件、「資格取得表彰」154名176件を表彰

### ②FD Caféの実施

回数	開催時期	開催テーマ	講演者等
第38回	R7. 7. 25	FIT教育賞受賞者報告会	情報工学科 正代隆義 教授 情報マネジメント学科 木村富也 准教授 電気工学科 北崎訓 准教授 電子情報工学科 松木裕二 教授
第39回	R7. 9. 17	カリキュラムをマネジメントする	法人桐蔭学園 桐蔭横浜大学 副学長／事務局長 河本達毅 氏
第40回	R7. 9. 19	大学におけるつながりについて考えよう！	情報通信工学科 松尾慶太 教授
第41回	R7. 10. 24	「スタートアップから教育・研究を考える～社会ニーズの教育・研究への反映について～」	株式会社産学連携研究所 代表取締役 隅田剣生 氏
第42回	R8. 2. 13	多様性で広がる工学教育	九州大学男女共同参画推進室 河野銀子 教授

### 3) 学習支援センター (FIT-inサポート\*) 利用状況

学科	年度	令和6年度		令和7年度		増加率 R7年度/R6年度
		合計(回)	全体比	合計(回)	全体比	
電子情報工学科		482	10%	661	13%	137.1%
生命環境化学科		398	8%	557	11%	139.9%
知能機械工学科		25	0%	60	1%	240.0%
電気工学科		115	2%	178	4%	154.8%
情報工学科		468	9%	327	7%	69.9%
情報通信工学科		917	18%	534	11%	58.2%
情報システム工学科		2,197	44%	2,510	50%	114.2%
システムマネジメント学科/情報マネジメント学科		136	3%	55	1%	40.4%
社会環境学科		282	6%	130	3%	46.1%
科目等履修生ほか		11	0%	0	0%	0.0%
合計		5,031	100%	5,012	100%	99.6%

\*全学生を対象に、正課授業の単位取得を目的として、教員や学科の先輩に質問や相談ができる取組

### 4) 令和7年度奨学金・対象人数の状況

#### ① 本学独自奨学金

(単位：千円)

奨学の趣旨	大学	短大	高校	合計
学業奨励	107,817 (195名)	7,035 (17名)	35,348 (112名)	150,200 (324名)
課外活動奨励	70,980 (128名)		22,528 (82名)	93,508 (210名)
経済的事由対応	6,665 (33名)	1,132 (6名)		7,797 (39名)
経済的事由 (留学生)	7,639 (24名)	2,010 (6名)		9,649 (30名)
国際交流支援	8,905 (22名)			8,905 (22名)
その他	2,325 (2名)	4,080 (34名)	5,613 (26名)	12,018 (62名)
合計	204,332 (404名)	14,257 (63名)	63,490 (220名)	282,078 (687名)

#### ② 修学支援費<国の高等教育修学支援新制度 (6年目)>

R7年度授業料等減免採用実績

学部：1,478名/874,886千円 (760名/367,446千円)

短大：98名/42,610千円 (76名/33,556千円)

※人数には支援対象外休停止中の学生含む ( )内は前年度実績

5) 留年判定者数一覧

在籍=在籍者数(年度当初)、留年=留年判定者数

学部	学科	学年	令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度		
			在籍	留年	率	在籍	留年	率	在籍	留年	率	在籍	留年	率	在籍	留年	率
工学部	電子情報	1年	105	10	9.5%	104	14	13.5%	117	22	18.8%	116	15	12.9%	113	20	17.7%
		2年	97	9	9.3%	99	13	13.1%	97	23	23.7%	112	18	16.1%	113	21	18.6%
		3年	124	27	21.8%	108	30	27.8%	112	22	19.6%	90	18	20.0%	109	31	28.4%
		4年	107	6	5.6%	97	2	2.1%	80	2	2.5%	90	0	0.0%	69	2	2.9%
		合計	433	52	12.0%	408	59	14.5%	406	69	17.0%	408	51	12.5%	404	74	18.3%
	生命環境	1年	125	22	17.6%	113	13	11.5%	107	15	14.0%	126	10	7.9%	109	10	9.2%
		2年	89	7	7.9%	106	9	8.5%	101	9	8.9%	99	6	6.1%	118	9	7.6%
		3年	105	11	10.5%	91	4	4.4%	100	6	6.0%	97	7	7.2%	98	4	4.1%
		4年	91	1	1.1%	92	2	2.2%	88	2	2.3%	95	3	3.2%	93	0	0.0%
		合計	410	41	10.0%	402	28	7.0%	396	32	8.1%	417	26	6.2%	418	23	5.5%
	知能機械	1年	146	11	7.5%	133	11	8.3%	135	11	8.1%	122	12	9.8%	137	10	7.3%
		2年	126	10	7.9%	140	12	8.6%	131	12	9.2%	132	10	7.6%	115	9	7.8%
		3年	125	16	12.8%	126	19	15.1%	139	18	12.9%	134	12	9.0%	133	14	10.5%
		4年	106	4	3.8%	111	1	0.9%	105	2	1.9%	122	9	7.4%	129	2	1.6%
		合計	503	41	8.2%	510	43	8.4%	510	43	8.4%	510	43	8.4%	514	35	6.8%
	電気	1年	151	17	11.3%	105	18	17.1%	114	25	21.9%	121	26	21.5%	132	27	20.5%
		2年	90	20	22.2%	147	28	19.0%	103	16	15.5%	99	15	15.2%	109	14	12.8%
		3年	90	13	14.4%	79	16	20.3%	130	15	11.5%	95	15	15.8%	93	12	12.9%
		4年	89	7	7.9%	84	0	0.0%	62	5	8.1%	118	9	7.6%	85	7	8.2%
		合計	420	57	13.6%	415	62	14.9%	409	61	14.9%	433	65	15.0%	419	60	14.3%
小計	1年	527	60	11.4%	455	56	12.3%	473	73	15.4%	485	63	13.0%	491	67	13.6%	
	2年	402	46	11.4%	492	62	12.6%	432	60	13.9%	442	49	11.1%	455	53	11.6%	
	3年	444	67	15.1%	404	69	17.1%	481	61	12.7%	416	52	12.5%	433	61	14.1%	
	4年	393	18	4.6%	384	5	1.3%	335	11	3.3%	425	21	4.9%	376	11	2.9%	
	合計	1,766	191	10.8%	1,735	192	11.1%	1,721	205	11.9%	1,768	185	10.5%	1,755	192	10.9%	
情報工学部	情報	1年	134	1	0.7%	147	2	1.4%	145	0	0.0%	150	1	0.7%	159	1	0.6%
		2年	165	18	10.9%	142	10	7.0%	153	14	9.2%	154	11	7.1%	156	9	5.8%
		3年	151	9	6.0%	157	11	7.0%	147	16	10.9%	157	6	3.8%	154	14	9.1%
		4年	160	6	3.8%	147	5	3.4%	147	2	1.4%	131	4	3.1%	155	4	2.6%
		合計	610	34	5.6%	593	28	4.7%	592	32	5.4%	592	22	3.7%	624	28	4.5%
	情報通信	1年	107	0	0.0%	94	2	2.1%	102	2	2.0%	104	1	1.0%	111	2	1.8%
		2年	114	21	18.4%	126	16	12.7%	104	18	17.3%	115	15	13.0%	114	26	22.8%
		3年	107	10	9.3%	100	14	14.0%	123	10	8.1%	89	9	10.1%	106	11	10.4%
		4年	92	7	7.6%	99	9	9.1%	91	3	3.3%	115	1	0.9%	80	0	0.0%
		合計	420	38	9.0%	419	41	9.8%	420	33	7.9%	423	26	6.1%	411	39	9.5%
	情報システム	1年	95	1	1.1%	105	2	1.9%	104	2	1.9%	102	3	2.9%	111	4	3.6%
		2年	110	21	19.1%	112	16	14.3%	116	8	6.9%	105	8	7.6%	104	13	12.5%
		3年	100	14	14.0%	96	4	4.2%	100	9	9.0%	110	5	4.5%	101	7	6.9%
		4年	100	4	4.0%	89	3	3.4%	93	4	4.3%	93	6	6.5%	108	6	5.6%
		合計	405	40	9.9%	402	25	6.2%	413	23	5.6%	410	22	5.4%	424	30	7.1%
	システムマネジメント／情報マネジメント	1年	71	1	1.4%	76	0	0.0%	74	0	0.0%	103	1	1.0%	99	0	0.0%
		2年	80	18	22.5%	84	14	16.7%	85	10	11.8%	84	12	14.3%	109	13	11.9%
		3年	70	6	8.6%	69	5	7.2%	73	7	9.6%	80	0	0.0%	70	4	5.7%
		4年	73	8	11.0%	72	6	8.3%	68	6	8.8%	70	7	10.0%	84	11	13.1%
		合計	294	33	11.2%	301	25	8.3%	300	23	7.7%	337	20	5.9%	362	28	7.7%
小計	1年	407	3	0.7%	422	6	1.4%	425	4	0.9%	459	6	1.3%	480	7	1.5%	
	2年	469	78	16.6%	464	56	12.1%	458	50	10.9%	458	46	10.0%	483	61	12.6%	
	3年	428	39	9.1%	422	34	8.1%	443	42	9.5%	436	20	4.6%	431	36	8.4%	
	4年	425	25	5.9%	407	23	5.7%	399	15	3.8%	409	18	4.4%	427	21	4.9%	
	合計	1,729	145	8.4%	1,715	119	6.9%	1,725	111	6.4%	1,762	90	5.1%	1,821	125	6.9%	
社会環境学部	社会環境	1年	197	14	7.1%	177	14	7.9%	196	16	8.2%	197	20	10.2%	225	22	9.8%
		2年	165	14	8.5%	185	9	4.9%	168	9	5.4%	180	6	3.3%	179	6	3.4%
		3年	193	8	4.1%	162	5	3.1%	182	8	4.4%	169	14	8.3%	195	9	4.6%
		4年	175	7	4.0%	192	6	3.1%	162	4	2.5%	176	6	3.4%	159	8	5.0%
		合計	730	43	5.9%	716	34	4.7%	708	37	5.2%	722	46	6.4%	758	45	5.9%
合計	1年	1,131	77	6.8%	1,054	76	7.2%	1,094	93	8.5%	1,141	89	7.8%	1,196	96	8.0%	
	2年	1,036	138	13.3%	1,141	127	11.1%	1,058	119	11.2%	1,080	101	9.4%	1,117	120	10.7%	
	3年	1,065	114	10.7%	988	108	10.9%	1,106	111	10.0%	1,021	86	8.4%	1,059	106	10.0%	
	4年	993	50	5.0%	983	34	3.5%	896	30	3.3%	1,010	45	4.5%	962	40	4.2%	
	合計	4,225	379	9.0%	4,166	345	8.3%	4,154	353	8.5%	4,252	321	7.5%	4,334	362	8.4%	

## 6) 本学の3つのポリシー

「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」の三つのポリシーを一体的に策定し、公表することが求められています。

本冊子では本学の全学ポリシーを掲載しています。各学部・学科、短期大学部、大学院（各研究科・各専攻）の詳細なポリシーについては、本学公式ウェブサイト等にて公開しております。

### ①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

#### i) 大学

本学では4つのDPを定め、さらにそれぞれ2つの共通コンピテンシー（能力・資質）に分け、「FIT力」として、授業や課外活動を含むあらゆる学修を通じて卒業までに到達すべき具体的な目標を示しています。

DP1：専門性と幅広い教養を身に付け、社会で活用することができる

DP2：自ら学ぶ意欲を持ち、目標を設定して振り返りながら主体的に学びに向かうことができる

DP3：異なる背景や文化を持つ人々と協働し、グローバル社会の課題に新たな解を生み出すことができる

DP4：情報を的確に整理・分析し、自らの考えを適切に伝えることができる

共通コンピテンシー(能力・資質)		定義	
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力

各学部・各学科のディプロマ・ポリシーについては、以下のサイトからご確認ください。

<https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/>

#### ii) 短期大学部

学位授与の方針 [https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2026/gakuseibinran\\_tan\\_2026.pdf](https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2026/gakuseibinran_tan_2026.pdf) (P.40に掲載)

#### iii) 大学院

修了認定の基本方針 [https://www.grd.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma\\_policy](https://www.grd.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/diploma_policy)

## ②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### i) 大学

#### 【教育課程の編成】

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するため、教養力育成科目および専門基礎科目ならびに専門教育科目からなる体系的な教育課程を編成する。

1	知識の習得と能動的な学習態度の涵養のために、それぞれの科目の特色を活かしたアクティブ・ラーニングを取り入れる。
2	目指す将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、自己調整学習の習慣化を図るため、学修ポートフォリオを活用した日常的な学習記録の蓄積と、学修成果の振り返りを行う制度を正課内外で運用する。
3	大学での学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、異なる背景や文化を持つ人々と協働して課題解決を行うプログラムを実施する。
4	学修活動全般において、数理的なものの見方を身に付け、情報を的確に整理・分析する機会や、適切なデジタルツールを用いて自らの考えを発信する機会を確保する。

#### 【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業研究、卒業論文等の成果物によって評価する。

各学部・各学科のカリキュラム・ポリシーについては、以下のサイトからご確認ください。

<https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/>

### ii) 短期大学部

教育課程の編成・実施の方針

[https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2026/gakuseibinran\\_tan\\_2026.pdf](https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2026/gakuseibinran_tan_2026.pdf)（P.40 に掲載）

### iii) 大学院

教育内容の基本方針 [https://www.grd.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum\\_policy](https://www.grd.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/curriculum_policy)

## ③アドミッション・ポリシー（入学受入の基本方針）

### i) 大学

入学受入の基本方針 <https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/>

### ii) 短期大学部

入学受入の基本方針 [https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2026/gakuseibinran\\_tan\\_2026.pdf](https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2026/gakuseibinran_tan_2026.pdf)（P.43 に掲載）

### iii) 大学院

入学受入の基本方針 [https://www.grd.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/admission\\_policy](https://www.grd.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/admission_policy)

### 7) 外部研究費（科学研究費、受託研究費等）採択実績

（単位：千円）

No.	外部資金種別	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	科学研究費補助金	65	85,129	62	88,006	57	84,869
2	共同研究	36	66,364	34	50,747	36	69,340
3	受託研究	22	67,468	24	50,417	20	63,695
4	研究助成金	13	12,330	10	17,666	9	21,800
5	奨学寄付金	13	7,793	14	5,250	11	14,370
6	その他	32	10,715	27	7,027	39	5,473
	合計	181	249,799	171	219,113	172	259,546

### 8) 科学研究費採択実績

	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
対象教員数（人）	①	157	161	161
申請件数	②	76	80	77
申請者比率	②/①	48.4%	49.7%	47.8%
総採択件数	③	65	62	57
採択者比率	③/①	41.4%	38.5%	35.4%
新規採択件数	④	18	12	11
新規採択率	④/②	23.7%	15.0%	14.3%
継続件数	⑤	47	50	46
交付額（千円）	⑥	85,112	82,810	68,890
1件当たり交付額（千円）	⑥/③	1,309	1,336	1,209

※短大教員及び学外研究員の応募・採択件数を含む

### 9) 地公体・公的機関研究費採択実績

No.	所属	氏名	契約先	研究課題・内容等	金額 (千円)
1	電子情報工 学科	盧 存偉	(国研) 科学技 術振興機構 (JST)	【大学発新産業創出基金事業】ス タートアップ・エコシステム共創 プログラム (PARKS Step1)	3,900
2	生命環境化 学科	奥田 賢一	(国研) 日本医 療研究開発機構 (AMED)	【創薬ブースター】細菌の細胞壁 合成因子Xに対する新規抗菌薬の探 索	15,000
3	生命環境化 学科	久保 裕也	(国研) 科学技 術振興機構 (JST)	【SATREPS】脱炭素社会に向けた炭 酸塩化を利用したカーボンリサイ クルシステムの開発	1,950
4	知能機械工 学科	楨田 諭	経済産業省 (JellyWare株式 会社)	経済産業省補助事業AKATSUKIプロ ジェクト「Q-Quest GROW」	100
5	電気工学科	井上 昌睦	(国研) 新エネ ルギー・産業技術総合 開発機構 (NEDO)	航空機向け革新的推進システム開 発事業/2MW級航空機用超電導推進 システムの開発	900
6	情報工学科	種田 和正	(国研) 科学技 術振興機構 (JST)	【大学発新産業創出基金事業】ス タートアップ・エコシステム共創 プログラム (PARKS Step1)	4,440
7	情報システ ム工学科	徳安 達士	文部科学省 (大 分大学)	文科省高度医療人材養成拠点形成事業 「低侵襲手術とAIのクロスイノベーショ ンによる高度医療人材育成拠点の形成」	3,000

No.	所属	氏名	契約先	研究課題・内容等	金額 (千円)
8	情報システム工学科	徳安 達士	(国研) 科学技術振興機構 (JST)	【大学発新産業創出基金事業】 スタートアップ・エコシステム共創プログラム (PARKS Step1)	910
9	情報システム工学科	徳安 達士	(国研) 科学技術振興機構 (JST)	【大学発新産業創出基金事業】 スタートアップ・エコシステム共創プログラム (PARKS Step2-1)	9,711
10	情報マネジメント学科	竹之内 宏	日本私立学校振興・共済事業団	2025年度若手研究者奨励金「対話型進化計算手法における感性評価に関する嗜好ルールの同定」	400
11	社会環境学科	乾 隆帝	国土交通省九州地方整備局	大規模な洪水攪乱下での河川構造の複雑性の機能と河川生態系の保全・回復に関する研究	1,436
12	社会環境学科	乾 隆帝	福岡市	令和7年度 魚類相による博多湾のアマモ場等評価	1,100
13	社会環境学科	田井 明	国土交通省九州地方整備局	令和7年度「革新的な統合気象データを用いた洪水予測の高精度化」研究	628
14	社会環境学科	上杉 昌也	国土交通省九州地方整備局	防災GoのAR機能による防災教育の向上	1,994
15	社会環境学科	上杉 昌也	(独) 日本学術振興会 (JSPS)	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業	650
16	社会環境学科	橘 雄介	(独) 環境再生保全機構 (ERCA)	「修理する権利」論：循環経済に向けたイノベーション・市場・環境に関する各制度の役割分担論の構築と研究チーム・ビルディング	2,990
17	教養力育成センター/生命環境/情報システム	檜崎 兼司 長谷 静香 李 知炯	福岡県篠栗町	「篠栗元気もん活動」共同事業	4,000
18	教養力育成センター	劉 莎	日本私立学校振興・共済事業団	2025年度女性研究者奨励金「日本語を話す2LIバイリンガルのスピーチ・プロダクション—異なる言語間の相互作用とバイリンガル言語発達に関する研究—」	400
19	総合研究機構	産学連携推進室	(国研) 科学技術振興機構 (JST)	【大学発新産業創出プログラム START】 大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援	7,150
20	総合研究機構	産学連携推進室	(国研) 科学技術振興機構 (JST)	【大学発新産業創出基金事業】 スタートアップ・エコシステム共創プログラム	3,900
合 計 20事業					64,559

### 10) 特許出願・登録案件一覧

①令和7年度特許出願件数：11件

②令和7年度特許登録案件：8件

No.	国	特許番号	登録日	発明の名称（共有者）	発明者	職位 (R7)	所属
1	日本	特許第 7671994号	2025/4/24	触媒の処理方法	久保 裕也	准教授	生命環境化学 学科
2	日本	特許第 7672138号	2025/4/24	プレス加工装置	廣田 健治	教授	知能機械工 学科
3	日本	特許第 7759061号	2025/10/15	飛行体の位置推定システム、及び飛行体の位置推 定方法	種田 和正	教授	情報工学科
4	日本	特許第 7759628号	2025/10/16	情報処理システム、内視鏡システム及び情報処理 システムの作動方法（大分大学、オリンパス株式 会社との共有）	徳安 達士	教授	情報システ ム工学科
5	日本	特許第 7802336号	2026/1/9	バイオフィルム形成抑制剤	奥田 賢一	准教授	生命環境化学 学科
6	日本	特許第 7839506号	2026/3/25	フィッシング防止システム、フィッシング検査装 置、フィッシング防止プログラム、及びフィッシ ング防止方法	種田 和正	教授	情報工学科
7	日本	特許第 7840526号	2026/3/27	内部検査装置及び内部検査方法（八光オートメー ション株式会社との共有）	近木 祐一郎	教授	電子情報工 学科
8	韓国	10-2837170	2025/7/17	オレフィン系樹脂多孔質体の製造方法、電池用セ パレータの製造方法、および製造装置（トヨタ自 動車株式会社との共有）	松山 清	教授	生命環境化学 学科

### 11) 総合研究機構主催研究講演（外部研究者等）一覧

（単位：人）

No.	主催部門	講演題目	講演者 等	参加者数
1	エレクトロニクス 研究所	群れるミクロナロボット	角五 彰 先生（京都大学 理学研 究科 物理学・宇宙物理学専攻 量 子光学講座 教授）	67
2	エレクトロニクス 研究所	Application of Artificial Intelligence Model in Respiratory Lungs Mechanics for Asynchrony Mechanically Ventilated Patients（人工 知能モデルの呼吸肺力学への応用：人工呼吸器使用中 の非同期患者に対する研究）	Dr. Nor Salwa Damanhuri （マラ工科大学電気工学部 准教 授）	41
3	エレクトロニクス 研究所	Recent Advances in Integrated Industrial motor drives（産業用統合モータドライブの最新 動向）	Liliana De Lillo 先生 （ノッティンガム大学）	14
4	エレクトロニクス 研究所	Colloidal association based on inorganic nanosheets and nonionic surfactants for the preparation of composite materials for diverse applications（無機ナノシートと非イオン性界面活性 剤に基づくコロイド会合による複合材料の調製と多様 な応用）	Régis Guégan 先生 （オルレアン大学/物理学科 准 教授）	15
5	エレクトロニクス 研究所	ナノ材料を用いたエネルギー関連デバイスの開発 （燃料電池の基礎と応用）	伊田 進太郎 先生 （熊本大学産業ナノマテリアル研 究所 教授）	63
6	情報科学研究所	Modeling Travel Behaviors for Emerging Mobility Services（新興モビリティサービスの ための交通行動モデル化）	Roger Chen 先生 （ハワイ大学マノア校 准教授）	28
7	情報科学研究所	導入を見据えたAI・データソリューション技術	冨田 武広 氏 （株式会社Fusic事業本部 先進事 業部門）	18
8	情報科学研究所	アンテナ放射や電磁波散乱に関する規範問題	平野 拓一 先生 （東京都市大学理工学部電気電子 通信工学科 准教授）	16

No.	主催部門	講演題目	講演者 等	参加者数
9	情報科学研究所	看護師のシフト作成問題に対する機械学習を用いた新解法について	鈴木 敦夫 先生 (南山大学理工学部データサイエンス科 教授)	23
10	情報科学研究所	「カオスの脳観」から見た人工知能の過去・現在・未来	津田 一郎 先生 (札幌市立大学AITセンター 特任教授)	18
11	総合研究機構	楽しく仕事をしながら生きるコツ～ライフサイエンス分野のキャリア戦略～	黒田 垂歩 氏 (ブラックフィールドズ・コンサルティングCEO 薬学博士)	34
12	総合研究機構	多様なスキルを未来へ活かす～全学科に開かれた半導体の世界～	神田 誠 氏 (九州半導体・デジタルイノベーション協議会 (SIIQ) コーディネーター)	53
合 計				390

## 12) 総合研究機構主催研究成果発表会・技術講習会（学内研究者）一覧

(単位：人)

No.	主催部門	種別	内容	参加者数
1	エレクトロニクス研究所	講習会	共同利用機器の「技術講習会」 ・ 走査電子顕微鏡 (SEM・EDS) 講師：知能機械工学科 天本 祥文 准教授 総合研究機構 宋 麗香 職員 ・ 粒子径分布測定装置 講師：株式会社島津製作所 担当者 等 計46件	503
2	情報科学研究所	講習会	高精細3Dプリンター 講師：株式会社キーエンス 担当者	16
		発表会	第5回 学内研究コミュニティ交流会	53
3	環境科学研究所	発表会	第19回 環境研究発表会	37
4	総合研究機構	発表会	総合研究機構研究成果報告会	131
合 計				740

**13) 総合研究機構の研究支援予算制度（令和7年度予算額：24,830千円）**

（単位：千円）

No.	制度名称	制度の概要等	件数	実績
1	研究スタートアップ支援	新任教員、ライフイベント復帰教員等の円滑な研究スタートアップをサポート	8	3,872
2	若手卓越研究支援	45歳以下若手研究者の卓越した研究の創出をサポート	2	3,000
3	研究高度化支援	研究者グループによる卓越した研究の創出や大型外部資金採択に向けた研究を2年に亘りサポート	1	8,000
4	科研費リトライ支援	科研費申請及び採択に向けた研究をサポート	6	2,787
5	学術論文作成支援	学術論文数増に向けて、英文翻訳等論文作成関連経費をサポート	24	978
6	研究計画書作成支援	外部資金獲得に向けた研究計画書作成等をサポート	21	687
7	学術図書出版支援	研究の高度化及び研究成果の社会還元に資することを目的に、図書の出版費の一部をサポート	0	0
8	国際学術誌論文投稿支援	本学教員の投稿論文について、オープンアクセス化に必要な投稿費用を全額支援（限度額有）	1	630
9	学会発表旅費支援	国内外の学会等で研究発表を行う学部生および大学院生に対して旅費の一部をサポート	22	1,665
合 計 9事業			85	21,619

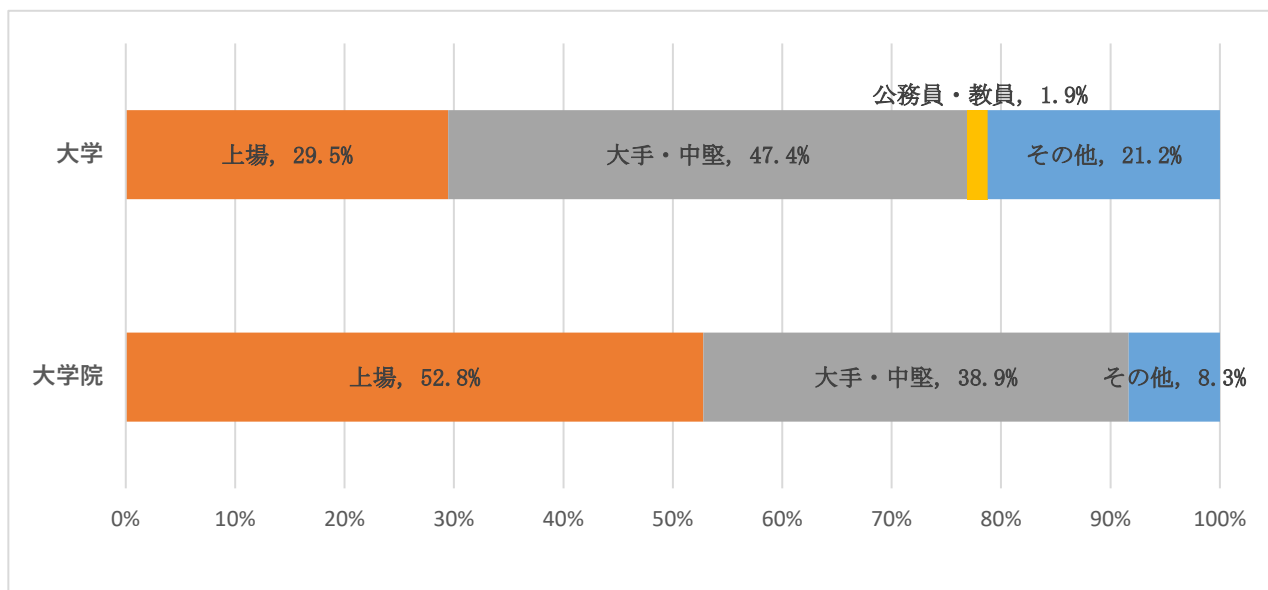
**14) 直近10カ年導入機器一覧：33計測機器等**

No.	計測機器名	No.	計測機器名
<b>&lt;エレクトロニクス研究所&gt;</b>		17	三次元光学プロファイラー
1	多機能型 X線回折装置（XRD）	18	顕微ラマン分光装置
2	卓上型 X線回折装置（XRD）	19	マルチコーター
3	レーザー回折式粒子径分布測定装置	20	真空乾燥機
4	TOC用オートサンプラー	<b>&lt;情報科学研究所&gt;</b>	
5	熱分析装置（TG-DTA/DSC）	22	高精細 3D プリンター
6	走査電子顕微鏡（SEM）	23	ベクトルネットワークアナライザ
7	イオンビームスパッタ装置	24	MR ヘッドマウントディスプレイHoloLens 2
8	UV放射照度計	25	MR ヘッドマウントディスプレイHoloLens 2
9	ワイヤーボンダー	26	力覚ディスプレイ Touch USB
10	LC用蛍光検出器	27	視線追跡システム グラス
11	蛍光顕微鏡	28	AirMagnet
12	全室素計（TN）	29	視線追跡システム スペクトラム
13	マスクレス露光装置	30	電波暗室
14	ハイボリュームエアサンプラー	31	VLSI設計研究システム
15	物理特性測定システム（PPMS）	32	MR ヘッドマウントディスプレイHoloLens 1
16	電子線マイクロアナライザ（EPMA）	33	モーションキャプチャー

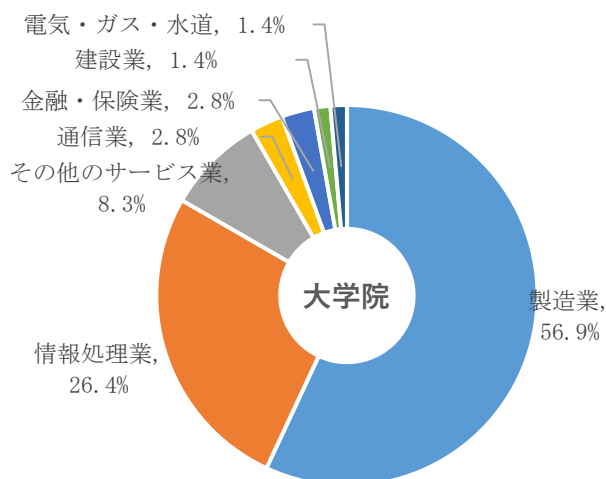
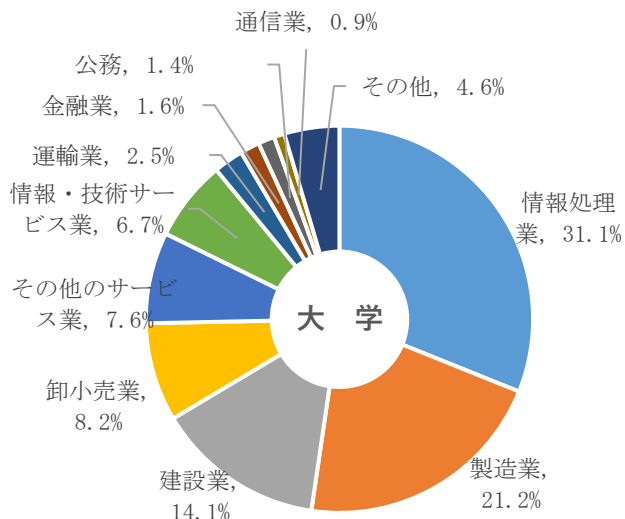
### 15) 就職率・実就職率（全体・学科別）

学部・学科	R4年3月卒業生		R5年3月卒業生		R6年3月卒業生		R7年3月卒業生		R8年3月卒業生	
	就職率	実就職率	就職率	実就職率	就職率	実就職率	就職率	実就職率	就職率	実就職率
大学	99.9%	96.6%	99.8%	98.1%	99.6%	98.0%	99.9%	98.1%	99.9%	98.3%
工学部	100%	98.5%	99.7%	98.4%	99.7%	98.6%	100%	98.6%	100%	98.1%
電子情報工学科	100%	100%	100%	97.6%	100%	98.5%	100%	97.5%	100%	100%
生命環境化学科	100%	94.9%	100%	97.2%	97.1%	97.1%	100%	98.8%	100%	98.7%
知能機械工学科	100%	98.9%	99.0%	99.0%	100%	98.9%	100%	100%	100%	97.2%
電気工学科	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	97.9%	100%	97.2%
情報工学部	99.7%	96.4%	99.7%	98.6%	99.7%	98.6%	99.7%	98.9%	99.7%	98.3%
情報工学科	99.3%	97.8%	100%	97.6%	99.2%	97.7%	99.1%	98.2%	99.2%	99.2%
情報通信工学科	100%	91.3%	100%	98.8%	100%	97.6%	100%	100%	100%	98.5%
情報システム工学科	100%	98.8%	100%	100%	100%	100%	100%	98.7%	100%	95.6%
システムマネジメント学科	100%	96.8%	98.4%	98.4%	100%	100%	100%	98.1%	100%	100%
社会環境学部	100%	93.3%	100%	96.7%	100%	95.5%	100%	95.7%	100%	98.6%
社会環境学科	100%	93.3%	100%	96.7%	100%	95.5%	100%	95.7%	100%	98.6%
大学院	100%	93.6%	95.4%	92.5%	100%	95.3%	98.7%	97.5%	100%	100%

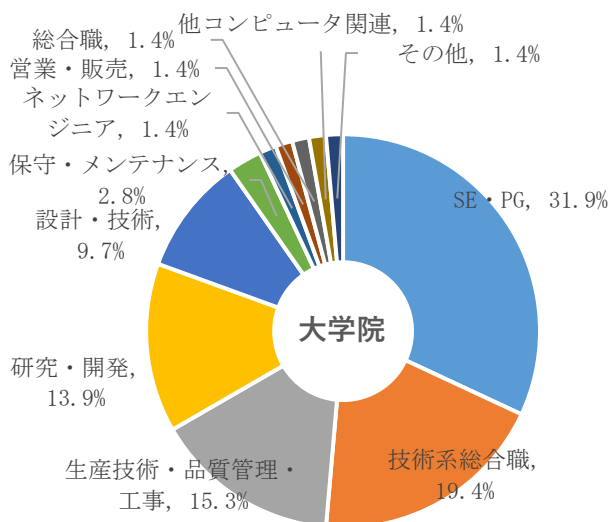
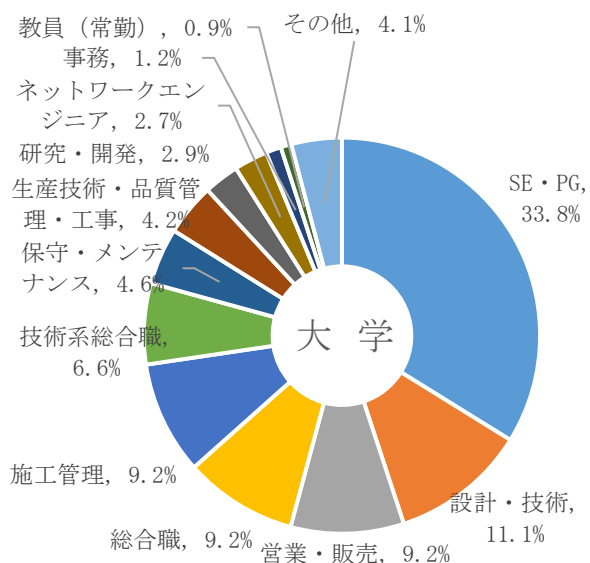
### 16) 規模別就職状況



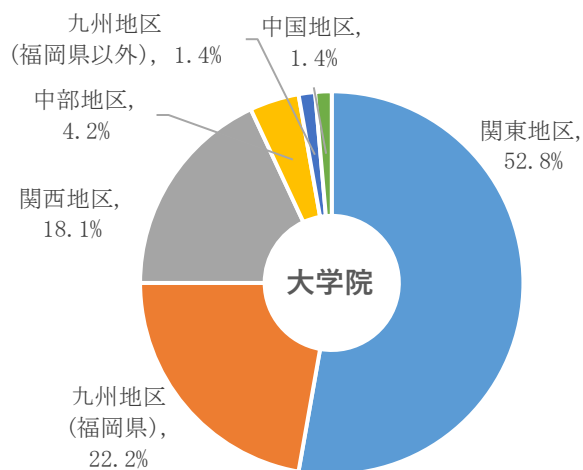
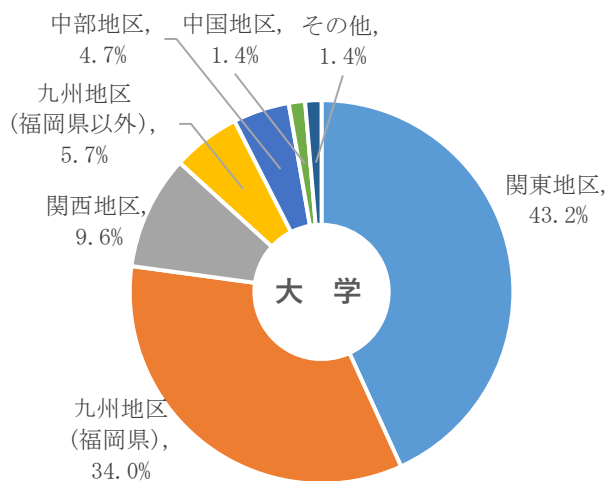
### 17) 業種別就職状況



### 18) 職種別就職状況



### 19) 地区別就職状況



## 20) 国外交流協定大学一覧

：2025年度新規協定締結大学

2026. 3月現在：55大学・機関

国・地域等	No.	協定大学名		所在地	締結年月日	
韓国	1	私立	慶星大学校	Kyung Sung University	釜山市	1981. 12. 5
	2	私立	亜洲大学校	Ajou University	水原市	1990. 10. 1
	3	私立	啓明大学校工学部	Keimyung University	大邱市	2009. 11. 3
	4	私立	東國大学校WISEキャンパス	Dongguk University WISE	慶州市	2023. 9. 1
	5	国立	釜慶大学校	Pukyong National University	釜山市	2023. 11. 8
	6	私立	東亜大学校	Dong-A University	釜山市	2023. 12. 18
	7	国立	昌原大学校	Changwon National University	慶尚南道昌原市	2023. 12. 18
	8	私立	順天郷大学校	Soon Chun Hyang University	忠清南道牙山市	2025. 5. 29
	9	私立	湖西大学校	Hoseo University	忠清南道牙山市	2025. 9. 25
中国	10	公立	大連理工大学	Dalian Univ. of Technology	大連市	1988. 2. 24
	11	公立	南京理工大学	Nanjing University of Science and Technology	南京市	1993. 12. 25
	12	公立	青島科技大学	Qingdao Univ. of Science and Technology	青島市	2008. 4. 18
	13	公立	北華大学	Beihua University	吉林市	2007. 10. 29
	14	公立	魯東大学	Ludong University	煙台市	2024. 8. 2
	15	公立	蘇州大学	Soochow University	蘇州市	2024. 12. 3
	16	公立	上海理工大学	University of Shanghai for Science and Technology	上海市	2025. 4. 11
台湾	17	国立	国立高雄科技大学	National Kaohsiung University of Science and Technology	高雄市	2017. 7. 27
	18	私立	元智大学	Yuan Ze University	桃園市	2022. 8. 30
	19	国立	国立東華大学	National Dong Hwa University	花蓮県	2023. 7. 21
	20	国立	国立宜蘭大学	National Ilan University	宜蘭市	2023. 7. 28
	21	私立	明新科技大学	Minghsin University of Science and Technology	新竹県	2023. 12. 25
	22	国立	雲林科技大学	National Yunlin University of Science and Technology	雲林県	2024. 5. 28
	23	私立	明志科技大学	Ming Chi University of Technology	新北市	2025. 5. 23
	24	私立	亜州大学	Asia University	台中市	2025. 7. 16
タイ	25	王立	キングモンクット工科大学 ラカバン校	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	バンコク都	2008. 3. 13 2012. 10. 31 (工学部覚書)
	26	国立	チュラロンコン大学 理学部	Chulalongkorn University	バンコク都	2009. 2. 16
	27	私立	泰日工業大学	Thai-Nichi Institute of Technology	バンコク都	2017. 4. 3
	28	王立	キングモンクット工科大学 トンブリ校	King Mongkut's University of Technology Thonburi	バンコク都	2023. 3. 29
	29	私立	CMKL University	CMKL University	バンコク都	2025. 6. 19

国・地域等	No.	協定大学名		所在地	締結年月日	
マレーシア	30	国立	マラ工科大学	MARA University of Technology	ペナン州	2023. 3. 27
インドネシア	31	国立	マラン大学	State University of Malang	マラン市	2023. 7. 10
	32	公立	パダン州立ポリテクニク	Padang State Polytechnic	パダン市	2025. 4. 21
	33	国立	パジャジャラン大学	Padjadjaran University	バンドン市	2025. 10. 20
	34	公立	ハサンサディキン総合病院	Hasan sadikin General Hospital	バンドン市	2025. 10. 20
	35	国立	ハサヌディン大学	Hasanuddin University	マカッサル	2026. 2. 10
ベトナム	36	国立	ダナン大学工科大学	The University of Danang-University of Science and Technology	ダナン市	2023. 10. 10
	37	国立	ハノイ工科大学	Hanoi University of Science and Technology	ハノイ市	2024. 1. 22
	38	国立	ホーチミン市工科大学	Ho Chi Minh City University of Technology	ホーチミン市	2024. 1. 25
	39	国立	国立郵政通信技術学院	Posts and Telecommunications Institute of Tecnology	ハノイ市	2024. 6. 5
	40	私立	FPTポリテクニク	FPT Polytechnic College	ハノイ市	2026. 3. 9
シンガポール	41	国立	テマセク・ポリテクニク	Temasek Polytechnic	シンガポール	2024. 2. 15
米国	42	公立	フットヒルカレッジ	Foothill College	カリフォルニア州ロスアルトスヒルズ	1992. 6. 12
	43	公立	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	California State University, East Bay	カリフォルニア州ヘイワード	2003. 4
	44	公立	サンノゼ州立大学	San Jose State University	カリフォルニア州サンノゼ	2015. 8. 6
	45	私立	セントメアリーズカレッジカリフォルニア	Saint Mary's College of California	カリフォルニア州モラガ	2018. 1. 16
	46	公立	ハワイ大学マノア校	University of Hawai'i at Mānoa	ハワイ州ホノルル	2023. 8. 8
	47	公立	サンフランシスコ州立大学	San Francisco State University	カリフォルニア州サンフランシスコ	2023. 12. 6
カナダ	48	公立	センテニアルカレッジ	The Centennial College of Applied Arts & Technology	オンタリオ州トロント	2023. 2. 14
	49	公立	ブリティッシュコロンビア大学応用科学部	The University of British Columbia	ブリティッシュコロンビア州バンクーバー	2023. 8. 10
	50	公立	ウォータールー大学レニソン・カレッジ	Renison University College, Univertsity of Waterloo	オンタリオ州トロント	2026. 3. 12
豪州	51	公立	フェデレーション大学オーストラリア	Federation University Australia	ヴィクトリア州バララット	2001. 12. 20 2015. 12. 18
アルバニア	52	公立	ティラナ工科大学	Polytechnic University of Tirana	ティラナ	2009. 2. 26
イタリア	53	国立	ナポリ・フェデリコ2世大学	University of Naples Federico II	ナポリ	2018. 9. 10
ルーマニア	54	国立	クルジュ・ナポカ工科大学	Technical University of Cluj-Napoca	クルジュ・ナポカ市	2025. 9. 25
インド	55		デリー準州教育委員会	Delhi Board of School Education	デリー	2023. 11. 20

## 21) グローバル化教育施策一覧

教育施策の区分	個別教育施策	
英語教育支援 (ネイティブ職員)	正課授業での教員補助 (「異文化理解」科目)	
	留学プログラム事前レッスン	
	プライベート・グループレッスン、論文校正	
	英語学習イベント	
	コンテスト (Speech/Writing)	
4年間一貫支援	グローバル人材育成プログラム : Global Challenge Program (GCP)	
海外派遣 (Outbound)	研究室インターンシップ (タイ)	
	グローバルPBL (タイ、台湾、カナダ、ベトナム、マレーシア、インドネシア)	
	短期語学研修 (カナダ)	
	短期派遣研修 (タイ、シンガポール)	
	学部・研究室交流派遣 (要望に応じて)	
	長期学生支援制度 (協定校・私費)	
協定校受入れ事業 (Inbound)	短期・サマープログラム (中国・タイ・台湾等)	中国：南京・青島、タイ：キングモンクット、台湾：高雄科技大
	大学・大学院入学支援 (中国・タイ等)	中国：南京・青島 タイ：キングモンクット
	科目等履修生受入れ (中国・韓国・タイ・台湾)	中国：大連理工大、韓国：亜洲・慶星・啓明、タイ：キングモンクット、台湾：高雄科技大
	日本語教育	日本語能力試験対策/学習相談/スピーチコンテスト/作文集の刊行
オンラインプログラム	オンライン英会話	
	オンライン留学 (フィリピン・セブ島) Brighture/CPILS	
	VALE Program 言語・文化交流プログラム (南フロリダ大学)	
グローバル推進事業	国際適応力の指標確立	
	英語での教育高度化	
	グローバル企業への就職支援強化	
	グローバルマインドの醸成 (セミナー・講演会)	FIT Global Alumni Network
	協定校の新規開拓	
	正規留学生獲得ネットワーク構築	
	留学生別科運営	
	地域のグローバル化促進	

## 22) 国際交流実績一覧

### ①協定校から当年度に受け入れた留学生

大学名	学生数	備考
昌原大学校（韓国）	1名	4+2国際連携プログラム受入
青島科技大学（中国）	5名	4+2国際連携プログラム受入
魯東大学（中国）	4名	4+2国際連携プログラム受入
キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）	9名	ジョイントプログラム（FBK経由）
泰日工業大学（タイ）	1名	4+2国際連携プログラム受入

### ②短期学生交換プログラム等への参加人数

大学、渡航先等	プログラム名称、受入形態	学生数	期間
慶星大学校（韓国）	長期交換留学	2名派遣	10ヵ月間
	科目等履修生	4名受入	6ヵ月間
東國大学WISE校（韓国）	訪問団来学	10名受入	1日間
その他（韓国）	留学生別科	1名受入	1年半
青島科技大学（中国）	科目等履修生	12名受入	6ヵ月間
魯東大学（中国）	科目等履修生	11名受入	6ヵ月間
	留学生別科	1名受入	1年間
上海理工大学（中国）	科目等履修生	2名受入	6ヵ月間
大連理工大学（中国）	短期サマープログラム	5名派遣	10日間
国立高雄科技大学（台湾）	社会環境学部グローバルPBL	15名派遣	6日間
	職場実習プログラム受入	5名受入	1ヶ月間
	福岡研修	9名受入	1週間
	科目等履修生	4名受入	6ヵ月間
	Virtual Exchange Program	26名派遣・受入	2週間
宜蘭大学（台湾）	電子情報工学科グローバルPBL	10名派遣	7日間
	グローバルPBL受入れ（電子情報工学科）	11名受入	8日間
	科目等履修生	1名受入	6ヵ月間
明新科技大学（台湾）	電子情報工学科短期研修	12名派遣	8日間
明志科技大学（台湾）	生命環境化学科gPBL	8名派遣	5日間
	グローバルPBL受入れ（生命環境化学科）	11名受入	5日間
元智大学（台湾）	科目等履修生	2名受入	6ヵ月間
亜洲大学（台湾）	学長・学生団来学	20名受入	1日間
台湾桃園市立観音高校（台湾）	訪問団来学	20名受入	1日間
キングモンクット工科大学ラカバン校（KMITL）（タイ）	IT学部学生派遣	2名派遣	1ヶ月間
	情報マネジメント学科 海外事情派遣プログラム	7名派遣	9日間
	電子情報工学科グローバルPBL	7名派遣	10日間
	工学部IE学科研究室インターンシップ	4名派遣	3ヵ月間
	タイ短期派遣研修	13名派遣	15日間
キングモンクット工科大学ラカバン校（KMITL）（タイ）	Industrail Engineering and Logistics Management Program 日本短期研修	19名受入	1日間
	短期研修 サマープログラムにおける工学部・リベラルアーツ学部日本語学科生受入	20名受入	20日間
	工学部研修生受入れ	4名受入	4ヵ月間
	Biomedical Engineering 研修生	2名受入	3ヵ月間
	日本語学科生インターンシップ	2名受入	3ヵ月間
	日本語別科 ジョイントプログラム	1名受入	1年間
	日本語別科 ジョイントプログラム	1名受入	6ヵ月間

大学、渡航先等	プログラム名称、受入形態	学生数	期間
キングモンクット工科大学 トンプリ校 (KMITL) (タイ)	工学部研修生受入れ	1名受入	2ヵ月間
泰日工業大学 (タイ)	TNIサマープログラム2025 TNIスプリングプログラム	3名派遣 3名派遣	9日間 9日間
CMKL大学 (タイ)	研究室インターンシップ	2名受入	2ヵ月間
Posts and Telecommunications Institute of Technology (PTIT) (ベトナム)	情報工学部グローバルPBL (FIT-PTIT-VM0)	4名派遣	8日間
ハノイ工科大学 (HUST)	情報工学部グローバルPBL (FIT-HUST-TP)	4名派遣	8日間
マラ工科大学 (マレーシ ア)	知能機械工学科グローバルPBL	6名派遣	13日間
シンガポール国立大学等 (シンガポール)	社会環境学部ECO-STEP	10名派遣	5日間
テマセク・ポリテクニク (TP) (シンガポール)	SAIL Program	5名派遣	8日間
	教員・学生来校	36名受入	1日間
	Innovation & Entrepreneurship Departmentスタディツアー	20名受入	1日間
	情報マネジメント学科受入れ研修生	1名受入	4ヵ月間
	情報工学部受入れ研修生	3名受入	5ヵ月間
	情報工学部受入れ研修生	3名受入	3ヵ月間
	短期研修	5名派遣	1ヵ月間
	研修生受入れ	10名受入	3ヵ月間
Center for Premier International Language Studies (CPILS) (フィリピン)	CPILSオンライン留学プログラム	7名派遣	4週間
	CPILSオンライン留学プログラム	1名派遣	3週間
Brighture English Academy (フィリピン)	Brighture オンライン留学プログラム	1名派遣	3週間
デリー準州教育委員会 (DBSE) (インド)	JSTさくらサイエンスプログラム 招へいプログラム	7名受入	1週間
パダンポリテクニク (イ ンドネシア)	電気工学科グローバルPBL	5名派遣	9日間
ハサヌディン大学 (インド ネシア)	社会環境学部グローバルPBL	6名派遣	7日間
ハワイ大学マノア校 (アメ リカ)	Global Challenge Program 4期生海外研修	9名派遣	15日間
センテニアルカレッジ (カ ナダ)	夏季海外英語研修	12名派遣	1ヵ月間
ブリティッシュコロンビア 大学 (カナダ)	電気工学科グローバルPBL	8名派遣	8日間
在ホンジュラス日本大使館 (大使館推薦国費留学生)	日本語別科(一般)	1名受入	6ヶ月間
ルレオ工科大学 (スウェー デン)	短期研修生受入れ	1名受入	1ヶ月間
学生派遣・受入人数合計 (教職員の派遣は除く *5)		185名 277名	派遣 受入

\*5 教職員間の派遣・受入の当年度実績 161名(延べ数)(昨年度157名)

### 23) 自治体・企業・教育機関等との連携協定一覧（締結年月日順）31件（令和8年3月31日現在）

No.	協定名	協定先	締結年月日
1	株式会社福岡銀行及び株式会社ふくおかフィナンシャルグループと福岡工業大学との産学連携協力に関する協定	・株式会社福岡銀行 ・株式会社ふくおかフィナンシャルグループ	H20. 5. 23
2	株式会社西日本シティ銀行と福岡工業大学との産学連携協力に関する協定	・株式会社西日本シティ銀行	H20. 7. 28
3	東部地域大学連携に関する協定	・九州産業大学 ・福岡女子大学	H23. 11. 9
4	国立大学法人九州工業大学と福岡工業大学との連携に関する協定	・国立大学法人九州工業大学	H24. 5. 1
5	株式会社西日本新聞社と学校法人福岡工業大学との包括的連携協力に関する協定	・株式会社西日本新聞社	H24. 9. 26
6	福岡工業大学と株式会社九電工との研究開発における包括的な連携推進に関する協定	・株式会社クラフティア（旧：株式会社九電工）	H24. 11. 27
7	新宮町と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・新宮町	H26. 3. 20
8	古賀市と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・古賀市	H26. 7. 23
9	株式会社正興電機製作所と福岡工業大学との包括的連携推進に関する協定	・株式会社正興電機製作所	H26. 7. 23
10	長崎大学、熊本県立大学及び福岡工業大学との環境分野における包括的連携協力における協定	・長崎大学 ・熊本県立大学	H26. 12. 4
11	学校法人福岡工業大学と一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟との包括的連携に関する協定	・一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟	H27. 2. 15
12	福岡和白病院、創生会及び福岡工業大学の包括的連携に関する協定	・社会医療法人財団池友会福岡和白病院 ・社会福祉法人創生会	H27. 3. 5
13	中村学園大学短期大学部と福岡工業大学短期大学部との交流協定	・中村学園大学短期大学部	H27. 5. 25
14	北九州工業専門学校、大分県立工科短期大学校及び福岡工業大学短期大学部との包括的連携協力	・北九州工業専門学校 ・大分県立工科短期大学校	H27. 7. 10
15	芝浦工業大学と福岡工業大学との連携・協力に関する協定	・芝浦工業大学	H28. 10. 7
16	長崎県島原市と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・島原市	H30. 10. 12
17	福岡未来創造プラットフォームに関する包括連携協定	・福岡市、・福岡商工会議所 ・（一社）福岡市中小企業経営者協会 ・九州産業大学、九州大学、サイバー大学、西南学院大学、第一薬科大学、筑紫女学園大学、日本経済大学、福岡歯科大学、福岡女子大学、福岡大学、令和健康科学大学	R1. 5. 9 (R8. 3. 12 加盟機関更新)
18	篠栗町と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・篠栗町	R2. 8. 7
19	国立大学法人大分大学と学校法人福岡工業大学との包括連携・協力協定	・大分大学	R2. 8. 25
20	災害時における施設等の利用協力に関する協定	・福岡市	R3. 12. 1
21	福岡工業大学と福岡県警察とのサイバーセキュリティに関する協定	・福岡県警察本部	R4. 6. 28
22	古賀市と福岡工業大学との仮名加工情報を用いたデータサイエンスに関する連携協定	・古賀市	R4. 11. 7
23	福岡教育大学と福岡工業大学との教員養成に関する連携協定	・福岡教育大学	R6. 2. 21
24	法政大学と福岡工業大学との連携協力に関する協定	・法政大学	R6. 4. 1
25	福岡工業大学と神田女学園中学校高等学校との高大連携に関する合意	・神田女学園中学校高等学校	R6. 3. 21
26	福岡市災害ボランティアセンター設置に関する協定	・福岡市 ・社会福祉法人福岡市社会福祉協議会	R6. 3. 25
27	株式会社共和電業と福岡工業大学との包括連携・協力協定	・株式会社共和電業	R6. 3. 28
28	東京都立杉並工科高等学校と福岡工業大学との高大連携に関する協定	・東京都立杉並工科高等学校	R6. 9. 27
29	東福岡高等学校と福岡工業大学との高大連携に関する協定	・東福岡学園東福岡高等学校	R7. 1. 30
30	武庫川女子大学と福岡工業大学との包括的連携推進に関する協定	・武庫川女子大学	R8. 2. 27
31	福津市と福岡工業大学との人材育成事業連携に関する協定	・福津市	R8. 3. 10

## 24) 社会連携PBLプログラム一覧

◆地域課題の解決をテーマにプロジェクト型で学生のグループ活動によって課題解決提案または実行を伴う取組を掲載しています。

No.	連携先	活動名	活動授業	課外	担当教職員	所属	参加人数
1	福岡市 (大学周辺)	「福工大周辺地域」の資源と魅力	地域創生論 (1年次)		坂本	教養力育成センター	250
2	福岡市 千早公民館	高齢者向けスマホ教室	課外活動	○	倉本	社会連携センター	16
3	古賀市	シスマネPBL古賀市プロジェクト 工場見学ツアー、企業の課題解決	ゼミナールⅡ (3年次)		小林	システムマネジメント	18
4	古賀市	プラズマスイートコーン	卒研		北崎	電気工学	8
5	新宮町	シスマネPBL新宮町PJ 小学生向けICT教育	ゼミナールⅡ (3年次)		井口	システムマネジメント	6
6	新宮町	新宮町水生生物調査PBL	ゼミナール (2年+サポートで3,4年)		乾	社会環境	12
7	篠栗町 古賀市	地域創生PBL	地域創生PBL (1年次)		檜崎 坂本	教養力育成センター	75
8	福岡県警	シスマネPBL県警PJ	ゼミナールⅡ (3年次)		クラ	システムマネジメント	5
本学学生参加人数 (正課)							374
同上 (課外)							16
合計							390
取組件数							8

## 25) 社会連携センター利用学生の資格取得実績

資格・試験名	R6		R7		
	受験者	合格者	受験者	合格者	
Microsoft Office Specialist (MOS)	Word	16	15	—	—
	Excel	19	19	—	—
	Power Point	20	19	—	—
ITパスポート	145	25	109	19	
うち、情報マネジメント学科	23	1	23	1	
基本情報技術者	24	5	12	1	
CAD利用技術者試験 (2級)	50	39	45	40	
バイオ技術者認定試験 (上級)	4	2	2	0	
バイオ技術者認定試験 (中級)	15	6	10	6	
バイオ技術者認定試験 (初級)	36	33	34	32	
CCNA中級	6	3	16	3	
LinuC	—	—	1	0	
WEBクリエイター(エキスパート)	9	9	—	—	
CGエンジニア検定 (ベーシック)	10	6	—	—	
CGクリエイター (ベーシック)	1	1	—	—	
CG-ARTS検定 ベーシック	—	—	9	4	
日商簿記検定 (3級)	19	2	—	—	
FE午前免除試験	54	14	76	25	
リテールマーケティング2級	10	7	14	10	
リテールマーケティング2級予備試験	9	9	—	—	
リテールマーケティング3級	29	18	30	15	
合計	476	232	358	155	

## 26) 社会連携関連行事の開催状況

月	内容	主催・共催(太字:福岡工業大学)
R7 4	和白東親和会総会・町内会総会	和白東3丁目町内会・親和会、和白東4丁目町内会
	城東高校スプリングコンサート	<b>城東高校吹奏楽部</b>
	博多青松高校通信制勉強会	博多青松高校・入試課受入
	福岡県商業教育研究部会第2分科会簿記大会練習会	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
5	城東高校弓道部合同練習	城東高校弓道部
	社会環境学科長期インターンシップ結末会・勉強会	社会環境学科
	吹奏楽団スプリングコンサート	<b>吹奏楽団</b>
	令和7年度 福岡県高等学校芸術科研究会総会	福岡県高等学校芸術科研究会
	ガールスカウト福岡県連盟 定時総会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
6	福岡クラリネティストグループ演奏会	吹奏楽団
	福岡県商業高校商業部会 第4部会 ワープロ検定	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
	高文連放送部門福岡県大会	福岡県高等学校芸術・文化連盟
	社会環境学科長期インターンシップ勉強会(6・10月実施)	社会環境学科受入
	福岡県高等学校家庭科研究会第1回研修会・総会	福岡県高等学校家庭科研究会
	(社)九州インターンシップ推進協議会定時総会・講演会、事前研修会(6・7・9月実施)	九州インターンシップ推進協議会・就職部受入
	ガールスカウト福岡県連盟常置委員研修会・指導者研修会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	ビジネス計算実務検定試験研修会	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
7	城東高校七夕コンサート	<b>城東高校吹奏楽部</b>
	長期インターンシップ中間発表会	社会環境学科受入
	第3分科会 珠算・電卓選手強化会	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
	社会環境学科長期インターンシップブラッシュアップセミナー	社会環境学科受入
	西区市民吹奏楽団練習	吹奏楽団
	筑前地区中学校放送大会	城東高校受入
8	城東高校弓道部練習試合	城東高校弓道部
	サイエンスフェスタ2025in FIT	<b>福岡工業大学モノづくりセンター</b>
	弓道部練習試合	弓道部
	和白校区壮年ソフトボール大会	和白公民館
	須恵高校勉強会合宿	須恵高校・入試広報課受入
	九州高等学校理科教育研究会研究ノート編集会議	入試広報課受入
	新宮高校勉強会合宿	新宮高校・入試広報課受入
	バドミントン部合同練習会	バドミントン部
	活水高校吹奏楽部練習	吹奏楽団
	八代白百合学園吹奏楽部練習	吹奏楽団
	小学生のための野球教室	管財課
	長期インターンシップ前期コンテスト	社会環境学科受入
9	ロボット体験教室	<b>福岡工業大学モノづくりセンター</b>
	FIT講座(9・2月実施)	社会連携センター
	城東高校応援団・チアリーダー演舞会	城東高校
	ガールスカウト福岡県連盟成人研修会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	測定体験交流会(9・10月実施)	教養力育成センター

月	内容	主催・共催(太字:福岡工業大学)
10	吹奏楽団合同練習会	吹奏楽団
	城東高校ダンス部合同練習会	城東高校
	ボランティアセンター開設訓練	社会連携センター
	福岡県高等学校英語教育研究部会ディベート大会	福岡県高等学校英語教育研究部会
	全日本ロボット相撲九州大会	モノづくりセンター
	博多青松高校 通信制勉強会(10・12月実施)	博多青松高校・入試広報課受入
	新宮中学校文化発表会	城東高校
	城東高校ダンス部合同練習	城東高校
	ガールスカウト福岡県連盟ガールズメッセ2025サテライト	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	第22回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト	福岡吹奏楽連盟 城東高校吹奏楽部受入
11	第151回ビジネス計算実務検定試験研修会	福岡県高等学校商業教育研究部会
	YAPC:Fukuoka2025	情報工学科
	Breakthrough発表会	社会環境学科
	ウェルネス研究センター活動報告会	教養力育成センター
	福岡県商業教育研究部会研修会	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
	福岡県高等学校空手道錬成大会	城東高校
福岡県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表	福岡県高等学校芸術・文化連盟	
12	吹奏楽団合同練習	吹奏楽団
	クリスマスジョイントコンサート	吹奏楽団
	高文連自然科学部門ポスター発表県大会	高文連・入試広報課受入
	九州アプリチャレンジキャラバンコンテスト	教育開発推進室
	城東高校ダンス部合同発表会	城東高校
	福岡県教育連盟セミナー	入試広報課
	新宮高校 電子顕微鏡実習	新宮高校・入試広報課受入
	玄界高校イングリッシュキャンプ	玄界高校・入試広報課受入
	社会環境学科長期インターンシップ後期コンテスト	社会環境学科
	女子バレー 福岡県高等学校強化練習会	城東高校
	バドミントン部合同練習会	バドミントン部
R8 1	大学入学共通テスト	(独)大学入試センター
	FITジュニア小学部保護者会総会・卒部式	FITジュニア
	工業クラブ連盟生徒研究発表会	福岡県高等学校工業クラブ連盟
2	西日本新聞コミュニケーション大賞表彰式	西日本新聞社・福岡工業大学
	インターンシップ推進協議会スポーツ大会	就職部・インターンシップ推進協議会
	第3分科会第4回幹事・専門委員合同委員会	入試広報課受入 商業高校専門部会
	ガールスカウト60周年記念式典	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	DESCENTE CUP 中学校軟式野球大会	デサントジャパン(株)・硬式野球部受入
	大学吹奏楽団定期演奏会	<b>吹奏楽団</b>
	玄界高校探究成果発表会	玄界高校・入試広報課受入
3	ガールスカウト講習会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	城東高校吹奏楽部講習会	<b>城東高校吹奏楽部</b>
	城東高校吹奏楽部ゆかいな仲間コンサート	<b>城東高校吹奏楽部</b>
	新宮高校イングリッシュキャンプ	新宮高校・入試広報課受入

**27) 社会連携活動の取組状況及び成果一覧**

活動区分	取組名称等(( )内は連携先)	取組状況及び当年度の成果等
地域環境の保全	ラブアースクリーンアップ (福岡市)	学生35名による地域清掃参加と住民交流を通じた環境美化と意識向上への貢献
	水生生物調査および報告会 (新宮町)	学生12名による河川・海の生物調査実施と結果報告および地域活用への提案
教育・文化の振興	小学生にICT体験授業を実施 (新宮町)	学生6名による児童29名へのデータ分析やICTのゲーム形式による体験的学習機会の提供
	子ども向けプログラミング教室を実施 (和白東公民館)	学生5名による児童10名へのロボット操作を通じたプログラミング基礎と学習機会の提供
	地域創生PBL報告会を実施 (篠栗町)	学生12名による地域課題調査と子ども会活性化など具体的解決策の提案
	高齢者対象スマホ教室を開催 (千早公民館)	学生16名による延べ32名高齢者への個別指導とスマホ活用支援および交流促進
経済振興	工場見学したいけんツアーを企画・開催 (古賀市)	学生18名が企画・運営を行い、小中学生51名への企業見学を通じた地域産業理解の促進
	地元企業と連携したPBL成果発表会を実施 (古賀市)	学生18名が企業課題の解決策を発表し、企業・市関係者含む計14名が参加して成果報告を聴講
地域の安心・安全(防犯・防災)	災害ボランティアセンター設置・運営訓練 (福岡市)	関係者約75名による災害VC運営訓練参加と役割理解および連携体制強化
	防災Go実証実験を実施 (古賀市)	学生9名による防災アプリ活用と住民参加による災害リスク理解と防災意識向上
	高齢者にメッセージカード贈呈 (古賀市)	学生69名による約500枚のメッセージカード作成と高齢者への健康意識向上および介護予防啓発

## 28) 情報基盤センター関連設備利用実績

### ①PC室稼働状況

利用区分	R5	R6	R7
授業利用数	2,984	3,150	2,914
授業外利用数	603	680	662
総合計	3,587	3,830	3,576

### ②PC利用状況

利用区分	R5	R6	R7
利用者数	27,206	30,306	26,285
ログイン延数	206,706	222,326	197,555

## 29) 図書館入館者数・貸出数

利用者区分	R5		R6		R7	
	入館者数	貸出数	入館者数	貸出数	入館者数	貸出数
大学学生	105,645	7,183	105,420	7,190	121,382	6,600
大学院生	3,274	1,163	2,704	1,199	2,668	1,084
短大学生	4,149	331	4,342	364	2,765	143
研究生・科目等履修生	304	14	581	34	485	10
留学生別科	20	0	14	0	8	0
教職員	2,604	663	2,846	884	2,537	798
学内関係者(特別許可者)	1,038	743	1,446	764	1,207	809
学内一時利用者	—	—	—	—	517	—
学外利用者	10,925	1,247	19,455	1,967	19,277	1,891
学外一時利用者	—	—	—	—	1,016	—
図書館間相互貸借(ILL)	—	37	—	36	—	48
計	127,959	11,381	136,808	12,438	151,862	11,383

## 30) モノづくりセンタープロジェクト大会等参加戦績

プロジェクト名	参加大会名等	結果
二足歩行ロボット	「YOKA ロボまつり79 バトル大会」	17名参加 ライト級2位
	「YOKA ロボまつり80 バトル大会」	12名参加 ライト級1位、2位、3位
	「YOKA ロボまつり81 バトル大会」	15名参加 ライト級3位、ヘビー級3位
	「YOKA ロボまつり82 バトル大会」	11名参加 ライト級3位、ヘビー級1位
二足歩行ロボット	「YOKA ロボまつり83 バトル大会」	9名参加 ライト級2位、ヘビー級2位
	「第43回ヒューマノイドカップ」	15名参加 ライト級…1・2・3位 (1位はROBO-ONE Lightの予選免除) ヘビー級…2位
	「第8回工大サミット ROBO-ONE」	3名参加、バトル大会3台出場 新ルール説明会、交流会等参加
ロボット相撲	「第44回 ROBO-ONE」 「第28回 ROBO-ONE Light」	4名参加 10名参加 予選通過1台、決勝トーナメント2台 出場 1・2回戦敗退
	「全日本ロボット相撲関東地区予選会2025」	4名参加 【3kg自立型】3台出場
ロボット相撲	「全日本ロボット相撲近畿地区予選会2025」	6名参加 【3kg自立型】4台出場 【3kgラジコン型】1台出場 【3kg自立型】二〇加尖兵…ベスト8 ※1台全国大会に出場決定

プロジェクト名	参加大会名等	結果
ロボット相撲	「全日本ロボット相撲九州地区予選会2025」	13名参加（内2名ロボコンメンバー） 【3kg自立型】4台出場 【3kgラジコン型】2台出場 【500gラジコン型】5台出場
	「全日本ロボット相撲全国大会2025」	6名参加 【3kg自立型】二〇加尖兵 出場 3回戦敗退
ロボコン	「九州夏ロボコン2025」	12名（1チーム）参加 チーム名「赤いフォークリフト」 準優勝（全15チーム中）
	「第15回キャチロボバトルコンテスト」	6名参加 機体名「緋龍V」 決勝T進出（全95チーム中16チーム） 3位タイ、審査員特別賞受賞
	「関西春ロボコン2026」	7名参加、競技課題「陣取合戦」 予選15位 決勝トーナメント進出 ベスト24
ロボコン 二足歩行ロボット i-STEAM 下戸研究室 城東高校	「九州ロボットコンテスト2025モノづくりフェア杯」	学生10名、生徒1名参加 下戸研究室、城東高校と合同で参加 準優勝
超電導デモ	2025年度 市民公開講座超電導デモ機コンテスト	3名出場 6団体（内4大学）中2位
衛星コン	「第32回衛星設計コンテスト」	アイデア部門 エントリー 作品名「デブリ除去専用完全自律型衛星 LADD」書類提出 B評価（1次審査通過外作品中上位21～50%）
農業DX	「情報処理学会第24回情報科学技術フォーラム」	6名参加 研究タイトル「画像情報を用いたあまおうの収穫量予測に関する予備的実験」 「情報処理学会第24回情報科学技術フォーラム奨励賞」受賞

### 31) モノづくりセンタープロジェクト課外活動支援事業・寄贈

プロジェクト名	支援・寄贈	詳細
ロボコン	「九州夏ロボコン2025」準優勝 会社：株式会社京製メック様	部品サポート 5万円相当
ロボット相撲 二足歩行ロボット EVフォーミュラー	「SOLIDWORKS Student Premium」 会社：SOLID WORKS様	SOLID WORKS ライセンス 100万円相当
ロボット相撲	2025年度ミスミ「学生ものづくり支援」 会社：株式会社ミスミグループ本社様	通常支援枠に採択 （5万円相当のミスミ商品提供）
二足歩行ロボット	2025年度ミスミ「学生ものづくり支援」 会社：株式会社ミスミグループ本社様	通常支援枠に採択 （5万円相当のミスミ商品提供）
i-STEAM 教育教材開発	2025年度ミスミ「学生ものづくり支援」 会社：株式会社ミスミグループ本社様	特別支援枠に採択（採択は7年連続） （10万円相当のミスミ商品提供）
全プロジェクト	圧着端子、圧着ペンチ等工具寄贈 会社：日本圧着端子製造株式会社	モノづくり講座の際使用したパーツ・圧着工具等を寄贈（30万円相当）

### 32) 募集活動別動員数の推移

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試	R8/R7
高校訪問（延べ訪問数）	1,298	1,655	1,651	1,579	1,645	104.2%
DM（保護者、高校生宛）通数	53,200	53,061	59,627	117,696	128,198	108.9%
メールマガジン延べ配信数	50,205	78,884	72,600	51,517	71,695	139.2%
総接触者数	22,842	22,461	21,534	24,620	22,480	91.3%
HPセッション数	919,792	927,653	1,030,163	1,070,356	1,203,592	112.4%
SNSフォロワー数	1,701	3,211	3,826	4,760	5,811	122.1%
YouTube入試動画再生回数	—	—	2,688	8,088	9,753	120.6%
パブリシティ掲載数	335	299	343	308	308	100.0%
高校内進学説明会実施回数	65	93	88	81	82	101.2%
模擬講義／分野別ガイダンス実施回数	36	55	62	72	76	105.6%
進学相談会（会場数）	34	31	29	28	27	96.4%
進学相談会（着席数）	479	407	473	426	438	102.8%
団体見学（校数）	11	28	36	43	43	100.0%
団体見学（人数）	563	1,120	1,460	2,141	2,092	97.7%
オープンキャンパス参加者	(Web)3,481	(Web)3,684	1,830	2,045	2,402	117.5%

### 33) 学科ごとの延べ志願者数の推移

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試	R8/R7
工学部	4,563	4,813	3,817	3,983	4,548	114.2%
電子情報工学科	1,243	1,362	1,085	1,144	1,197	104.6%
生命環境化学科	982	1,051	844	943	977	103.6%
知能機械工学科	1,198	1,211	990	983	1,257	127.9%
電気工学科	1,140	1,189	898	913	1,117	122.3%
情報工学部	5,284	5,472	4,485	4,570	4,676	102.3%
情報工学科	1,797	1,884	1,550	1,592	1,605	100.8%
情報通信工学科	1,100	1,222	903	992	936	94.4%
情報システム工学科	1,557	1,495	1,138	1,181	1,340	113.5%
情報マネジメント学科 *1	830	871	894	805	795	98.8%
社会環境学部社会環境学科	899	970	970	937	1,123	119.9%
合計	10,746	11,255	9,272	9,490	10,347	109.0%

\*1 R5年度までシステムマネジメント学科

### 34) 入学志願者数の推移（入試種別）

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試	R8/R7
総合型選抜計	88	81	60	152	195	128.3%
スペシャルスキル	57	53	44	134	162	120.9%
総合型選抜【後期】	31	28	16	18	33	183.3%
学校推薦型選抜計	627	638	601	605	649	107.3%
専願制	317	306	297	295	303	102.7%
併願制	310	332	304	310	346	111.6%
一般選抜	10,031	10,536	8,611	8,733	9,503	108.8%
3教科型	2,406	2,222	1,992	1,863	1,870	100.4%
共通テスト利用（社会環境学部）	72	92	81	79	94	119.0%
共通テスト利用【前期（全学部）】	5,010	5,204	4,547	4,893	5,761	117.7%
共通テスト利用【中期（〃）】	2,156	2,594	1,658	1,559	1,302	83.5%
共通テスト利用【後期（〃）】	377	418	320	322	452	140.4%
留学生	10	6	13	17	24	141.2%
合計	10,746	11,255	9,272	9,490	10,347	109.0%

### 35) 入学志願者・入学者数の推移（出身県別）

#### ①入学志願者

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試	R8/R7
全体	10,746	11,255	9,272	9,490	10,347	109.0%
福岡県	8,193	8,723	6,812	6,819	7,504	110.0%
佐賀県	475	537	477	596	479	80.4%
長崎県	498	398	392	376	551	146.5%
熊本県	245	267	147	167	279	167.1%
大分県	289	293	333	372	370	99.5%
宮崎県	230	289	253	253	266	105.1%
鹿児島県	278	246	280	364	373	102.5%
沖縄県	91	71	69	52	35	67.3%
九州地区 計	10,299	10,824	8,763	8,999	9,857	109.5%
山口県	227	243	247	234	213	91.0%
中国地区 他	91	77	52	60	47	78.3%
四国地区	29	17	41	32	65	203.1%
その他	100	94	169	165	165	100.0%

#### ②入学者

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試	R8/R7
全体	1,000	1,038	1,069	1,128	1,208	107.1%
福岡県	702	725	726	780	843	108.1%
佐賀県	55	58	70	65	67	103.1%
長崎県	51	51	53	60	67	111.7%
熊本県	30	31	23	32	47	146.9%
大分県	35	40	36	38	49	128.9%
宮崎県	29	38	35	41	37	90.2%
鹿児島県	42	42	44	48	41	85.4%
沖縄県	9	8	11	9	8	88.9%
九州地区 計	953	993	998	1,073	1,159	108.0%
山口県	20	26	29	22	15	68.2%
中国地区 他	9	8	12	5	7	140.0%
四国地区	4	1	9	6	5	83.3%
その他	14	10	21	22	22	100.0%

### 36) 女子学生の志願者・入学者の状況

	R5年度入試			R6年度入試			R7年度入試			R8年度入試			女子入学者 R8/R7
	志願者	入学者		志願者	入学者		志願者	入学者		志願者	入学者		
	女子 人数	女子 人数	割合	女子 人数	女子 人数	割合	女子 人数	女子 人数	割合	女子 人数	女子 人数	割合	
工学部	964	48	5.0%	623	63	10.1%	754	69	9.2%	745	65	8.7%	94.2%
電子情報工学科	227	6	2.6%	133	7	5.3%	137	3	2.2%	153	12	7.8%	400.0%
生命環境化学科	350	36	10.3%	265	46	17.4%	377	52	13.8%	341	38	11.1%	73.1%
知能機械工学科	202	2	1.0%	124	5	4.0%	137	13	9.5%	142	11	7.7%	84.6%
電気工学科	185	4	2.2%	101	5	5.0%	103	1	1.0%	109	4	3.7%	400.0%
情報工学部	1,080	46	4.3%	765	56	7.3%	863	79	9.2%	808	83	10.3%	105.1%
情報工学科	299	16	5.4%	217	21	9.7%	248	26	10.5%	216	19	8.8%	73.1%
情報通信工学科	252	11	4.4%	168	15	8.9%	188	22	11.7%	168	21	12.5%	95.5%
情報システム工学科	285	6	2.1%	184	4	2.2%	216	15	6.9%	223	14	6.3%	93.3%
情報マネジメント学科 *1	244	13	5.3%	196	16	8.2%	211	16	7.6%	201	29	14.4%	181.3%
社会環境学部社会環境学科	332	38	11.4%	314	40	12.7%	306	47	15.4%	388	55	14.2%	117.0%
総合計	2,376	132	5.6%	1,702	159	9.3%	1,923	195	10.1%	1,941	203	10.5%	104.1%

\*1 R5年度までシステムマネジメント学科

### 37) 学生表彰者（団体表彰・個人表彰・卒業時学業成績優秀者）

#### 団体表彰（通期）

ラグビー部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第63回木元杯 九州セブンズ 準優勝</li> <li>・令和7年度九州学生ラグビーリーグ 優勝</li> </ul>
軟式野球部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度九州学生軟式野球連盟春季大会 優勝</li> </ul>
吹奏楽団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第48回全日本アンサンブルコンテスト大学の部 金賞</li> <li>・第41回福岡県吹奏楽コンクール 大学の部 金賞</li> <li>・第70回九州吹奏楽コンクール大学の部 金賞</li> <li>・第73回全日本吹奏楽コンクール大学の部 金賞</li> <li>・第19回福岡県アンサンブルコンテスト大学の部 金賞</li> <li>・第51回九州アンサンブルコンテスト大学の部 金賞</li> </ul>
女子柔道部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第33回九州学生女子柔道優勝大会（3人制の部） 準優勝</li> </ul>
i-STEM 教材開発グループ 森 千晶、前原 彩乃 尾畑 優衣、関本 咲耶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産業技術教育学会発明・工夫コンテスト 教材開発部門 学会長賞</li> </ul>
弓道部 女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第63回九州学生弓道選手権大会 女子団体優勝</li> <li>・全日本学生弓道王座決定戦第49回女子の部 団体ベスト4（第3位）</li> </ul>
工学部 電気工学科 3年 渡邊 翼、小嵯 涼介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年CQEVミニカート・レース筑波大会（全国大会） 学生3位（総合4位）入賞</li> </ul>
モノづくりセンター ロボコンプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回キャチロボバトルコンテスト 3位（全国から95チーム）</li> <li>・九州夏ロボコン2025 準優勝</li> </ul>
i-STEM 教材開発グループ 原口 芽生、尾畑 優衣 水田 志保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産業技術教育学会主催 2025年度技術教育創造の世界（大学生版） 発明・工夫コンテスト 教材開発部門 特別賞</li> </ul>

#### 個人表彰（下期）

大和 烈 (情報工学部システムマネジメント学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度日本オペレーションズ・リサーチ学会 九州支部 九州地区におけるOR若手研究交流会 優秀賞受賞</li> </ul>
織田 竜次 (工学部電子情報工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産業技術教育学会主催 2025年度 技術教育想像の世界（大学生版） 発明・工夫コンテスト 教材開発部門 学会長賞</li> </ul>
長妻 奏音 (工学部生命環境化学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西学生弓道選抜対抗試合第49回女子の部 西軍優勝（3年・長妻奏音代表選出、出場）</li> </ul>

#### 卒業時学業成績優秀者

##### <大学>

- ・岩政 遥香（電子情報工学科）
- ・柿坂 洋佑（生命環境化学科）
- ・坂田 竜一郎（知能機械工学科）
- ・小川 慶太（電気工学科）
- ・酒井 稜平（情報工学科）
- ・大島 佑月（情報通信工学科）
- ・福永 祐子（情報システム工学科）
- ・永野原 ゆい（システムマネジメント学科）
- ・谷口 寛太（社会環境学科）

##### <短大>

- ・中司 萌々香
- ・中嶋 宏樹

### 38) 学会表彰者

#### <大学院>

岩谷 光 (工学研究科電子情報工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISSS-10 Student Prize</li> <li>日本表面真空学会九州支部学術講演会 学生講演奨励賞</li> </ul>
齋藤 祐星 (工学研究科電子情報工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> </ul>
青木 勇太 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> </ul>
井手 悠 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度物理化学インターカレッジセミナー 兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会 優秀ポスター賞</li> </ul>
大庭 広汰 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本鉄鋼協会第190回秋季講演大会 学生ポスターセッション奨励賞</li> </ul>
鬼木 健二郎 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> <li>化学工学会第56回秋季大会材料・界面部会シンポジウム 優秀ポスター賞</li> </ul>
久保田 恵 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源・素材学会九州支部2025年度若手研究者および技術者の研究発表会優秀賞Presentation Award Kyushu, MMIJ</li> <li>第61回化学関連支部合同九州大会 優秀ポスター賞</li> <li>表面技術協会九州支部 優秀学生賞</li> </ul>
田丸 智哉 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度日本生化学会九州支部例会 優秀ポスター賞銅賞</li> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> </ul>
三浦 大輝 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面技術協会九州支部 優秀学生賞</li> </ul>
水口 勝誠 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度物理化学インターカレッジセミナー 兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会 優秀ポスター賞</li> </ul>
宮西 一駆 (工学研究科生命環境化学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度物理化学インターカレッジセミナー 兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会 優秀口頭発表賞</li> <li>European Astrobiology Network Association 2025 Travel Grant Award</li> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> </ul>
井上 詠心 (工学研究科知能機械工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> <li>日本機械学会 三浦賞</li> </ul>
西山 和樹 (工学研究科知能機械工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>計測自動制御学会 SICE優秀学生賞</li> </ul>
萩原 一騎 (工学研究科知能機械工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>International Conference on Innovations in Engineering and Social Science (ICIESS) 2024 Best Student Poster Presentation Award</li> </ul>

## <大学院>

隠崎 遼河 (工学研究科電気工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気学会 優秀論文発表賞B賞</li> </ul>
新 伊織 (工学研究科情報工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本ソフトウェア科学会 IEEE Computer Society Japan Chapter FOSE Young Researcher Award (於FOSE2025第32回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ)</li> </ul>
池田 鷹飛 (工学研究科情報通信工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレ-immージョン技術研究発表賞 (日本バーチャルリアリティ学会テレ-immージョン技術研究会)</li> </ul>
瀬利 勇太 (工学研究科情報通信工学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレ-immージョン技術研究発表賞 (日本バーチャルリアリティ学会テレ-immージョン技術研究会)</li> </ul>
山本 一輝 (社会環境学研究科社会環境学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>応用生態工学会九州地区大会 令和7年度九州地区事例・研究発表会 ポスター発表優秀賞</li> </ul>

## <大学>

織田 竜次 (工学部電子情報工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報通信学会九州支部 成績優秀賞</li> <li>日本産業技術教育学会発明工夫コンテスト教材開発部門 学会長賞</li> </ul>
柿坂 洋佑 (工学部生命環境化学科) 村中 咲和子 (工学部生命環境化学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部 優秀学生賞</li> </ul>
原口 颯斗 (工学部生命環境化学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源・素材学会Outstanding Student Award , Kyushu MMIJ</li> </ul>
坂田 竜一朗 (工学部知能機械工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本機械学会 畠山賞</li> </ul>
石橋 愛梨 (工学部知能機械工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>計測自動制御学会 SICE優秀学生賞</li> </ul>
佐藤 友哉 (工学部電気工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度電気学会 九州支部長賞</li> </ul>
酒井 稜平 (情報工学部情報工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報通信学会九州支部 成績優秀賞</li> </ul>
上野 雄大 (情報工学部情報通信工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報通信学会九州支部 成績優秀賞</li> </ul>
中野 朝貴 (情報工学部情報システム工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報通信学会九州支部 成績優秀賞</li> </ul>
徳島 由依 (情報工学部システムマネジメント学 科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報通信学会九州支部 成績優秀賞</li> </ul>
有馬 実菜子 (情報工学部システムマネジメント学 科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本経営工学会 優秀学生賞</li> </ul>
大和 烈 (情報工学部システムマネジメント学 科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本オペレーションズ・リサーチ学会九州支部 優秀発表賞</li> </ul>

### 3. 短大のMP・APの実施状況＜重点方針VI（新たなステージに向けた基盤強化）＞

#### (1) 基本的な考え方

短大では、「4年制学部／学科への発展的改組のための基本構想設計と基盤作り」および「日本で一番『活力のある短大』」を今次MPの目標に掲げています。

この目標の実現に向け、デジタル分野に強みを持つ教育体制の構築と、教育DXを活用した個別最適化・協働的学びの実現を基本方針として、教育の質保証・学生支援・組織運営を一体的に推進しています。

#### (2) 取組状況

##### ①教育・学修支援

教育・学修支援については、上記方針に基づき、デジタル分野に対応したカリキュラムの整備と教育手法の高度化に取り組みました。

幅広い情報技術を修得できる教育内容の充実を図るとともに、教育DXを活用した個別最適化と協働的学びを主要科目に導入し、授業改善のPDCAを継続的に実施しました。

その結果、MDASH\*要件科目およびPBL科目の理解度・満足度は全科目で目標値（2.5点以上）を達成し、授業アンケートにおいても同様に全科目で目標値を達成しました。また、MDASHではリテラシーレベル116名（卒業生の89.9%）、応用基礎レベル27名（同20.9%）が修了し、前年度実績を上回りました。

あわせて、入学前教育や課外講座の実施を通じて基礎学力の底上げを図るとともに、資格取得支援においては目標30名に対し46名が受験するなど、学修成果の向上に資する取組を実施しました。

\*文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」

##### ②進路支援

進路支援については、教育成果を確実に進路実績につなげることを目的として、就職・編入の双方に対する支援の充実を図りました。

就職支援では、SPI講座の拡充や習熟度別クラス編成により基礎学力と実践力の双方を強化した結果、就職率100%（目標95%）、情報系就職決定者割合54.4%（目標50%）を達成しました。

また、編入学支援においても、国公立大学および福岡工業大学への合格者数はいずれも目標を上回り、編入決定率100%を達成するなど、教育成果が進路実績として結実しました。

##### ③学生生活・修学支援

学生生活・修学支援については、個別最適化の考え方に基づき、学生一人ひとりの学修状況の把握と継続的な支援を一体的に行う体制の強化を図りました。

面談の実施や出席状況・成績状況の継続的な把握に加え、学科内における情報共有を通じて、学修状況と進路希望を踏まえた支援を実施しました。

また、入学前教育や基礎学力支援と連動したフォローを行うことで、学修上の課題に対する早期対応に取り組みました。その結果、卒業時の進路未決定者は8名（目標10名以内）となりました。

##### ④組織運営・質保証

組織運営および質保証については、教育改革を支える内部質保証の仕組みの整備に取り組みました。教員評価制度に基づく優秀教員表彰の実施、デジタルメディア学科のカリキュラム検討、MDASHプログラムの自己点検評価を通じて、教育内容の改善と質保証の取組を継続的に推進しました。

## ⑤学生募集

学生募集については、本学の強みであるデジタル教育の成果を社会に発信し、志願者の確保につなげる取組を展開しました。

具体的には、附属城東高校工業科との高大連携による高校生向け講座の実施、i-STEM 教育プログラムへの参画、オンライン講座やオープンキャンパスと連動した体験型企画の実施などにより、受験生との接点拡充と情報発信の強化に取り組みました。

一方で、当年度の志願者数は 173 名にとどまり、当初目標（300 名以上）を下回る結果となりました（要因のひとつとして、18 歳人口の減少や志向の多様化による短期大学志願層の縮小）。

### (3) 評価・課題認識

就職・編入学などの進路実績や、教育の質の向上、資格取得支援等については、学生の在学中・卒業後の成果に直結する領域において高い達成状況となりました。これらの成果は、教育改善（PDCA）、個別面談、基礎学力支援、進路支援を組み合わせた組織的な支援体制が機能し、教育成果と進路実績が有機的に接続された結果と考えられます。

一方で、1 年生の進級不可者が 22 名となり、入学段階における学力の多様化への対応と在学中の早期支援が課題となっています。特に、学修状況の把握と継続的フォローによる早期介入の重要性が改めて認識されました。また、就職環境についても採用時期の早期化が進展しており、より早期からのキャリア形成支援への対応が必要です。

### (4) 課題達成方策等

進級不可・留年学生への支援については、出席状況や成績状況のモニタリングを基盤とし、学科会議における情報共有と学生・保護者との連携を通じて、早期対応を行う体制の強化を図ります。あわせて、入学前教育や基礎学力支援と連動した継続的フォローを行うことで、学修上の課題の早期解消を目指します。

就職支援については、採用活動の早期化に対応するため、業界研究機会の充実や進路指導の前倒しを行うとともに、学生の適性や志向に応じた支援を強化し、教育成果と進路の接続をいっそう明確化します。

### (5) 課題達成後の未来の姿

これらの取組により、就職率・編入決定率の高水準を維持しつつ、MDASH・PBL・資格取得が連動した体系的な学修環境のもと、多様な学生が段階的に成長できる教育体制の確立を目指します。

また、継続的な教育改善と自己点検評価を通じて、教育の質保証が機能する体制を定着させ、社会のニーズに応える人材育成を推進します。

令和 9 年度には、4 年制学部への発展的改組を予定しており、短期大学部で培った教育実践を基盤として、情報メディア分野における教育・研究機能の高度化を図り、デジタル社会に対応した高度な実践的人材の育成に取り組みます。

①進路先別人数等

年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
卒業生数		139	153	148	142	129
就職希望者		51	70	72	62	57
就職者		50	69	72	62	57
編入者		68	64	64	66	61
内訳	国公立大	11	7	6	9	11
	福工大	22	22	19	22	27
	その他私大	35	35	39	35	23
専門学校進学		7	11	3	1	3
進路決定者計 (就職者+編入者+専門学校進学)		125	144	139	129	121
無業者		14	9	9	13	8
就職率		98.0%	98.6%	100%	100%	100%
無業者率		10.1%	5.9%	6.1%	9.2%	6.2%
進路決定率		89.9%	94.1%	93.9%	90.8%	93.8%

就職者		50	69	72	62	57
上場・大手 中堅企業就職	人数	31	43	46	47	40
	割合	62.0%	62.3%	63.9%	75.8%	70.2%
IT系企業就職	人数	25	38	37	29	31
	割合	50.0%	55.1%	51.4%	46.8%	54.4%

編入者		68	64	64	66	61
工・情報系 学部学科編入	人数	55	51	52	53	46
	割合	80.9%	79.7%	81.3%	80.3%	75.4%

②編入学合格者・進学者一覧

大学種別	学校名	学部	合格者数 (延べ数)	大学種別	学校名	学部	合格者数 (延べ数)	
国公立大	宮崎大学	工学部	2	私立大 (その他)	大阪産業大学	デザイン工学部	1	
	鹿児島大学	工学部	1		京都産業大学	情報理工学部	1	
	佐賀大学	地域デザイン学部	1		近畿大学	産業理工学部	1	
	山口大学	工学部	2		九州産業大学	理工学部	11	
	高知大学	理工学部	1		久留米工業大学	工学部	2	
	九州工業大学	情報工学部	1		九州情報大学	経営情報学部	3	
	九州工業大学	情報工学部	1		久留米大学	経済学部	1	
	島根大学	総合理工学部	2		西日本工業大学	デザイン学部	2	
	北九州市立大学	国際環境工学部	1		西日本工業大学	工学部	1	
						九州共立大学	経済学部	1
合計			12		埼玉工業大学	工学部	1	
私立大 (福工大)	福岡工業大学	情報工学部	15		湘南工科大学	工学部	1	
	福岡工業大学	社会環境学部	14					
合計			29	合計			26	
							総合計	67

## 4. 高校のMP・APの実施状況＜重点方針VII（城東高校の特色ある教育の再構築と実施）＞

### (1) MP・APの基本的な考え方

高校では、「特色と魅力がある教育の実践」、「ステークホルダーから支持される教育環境整備」を今次のMP目標に掲げ、この目標に適う多様な教育活動をAP（取組計画）として取り組んでいます。

### (2) 取組の実施状況

#### ①教員育成・組織基盤

教科メンター制および2人担任制を継続実施し、新入職教員の成長支援と担任業務の質的向上を図りました。いずれも関係者から良好な関係性と一定の成果が確認されています。教職協働の促進に関して、変形労働時間制の導入に向けた業務見直しの聴き取りを進めました。一方、IR専門部署（教育戦略室）は担当者の授業・業務負荷が解消されず、今年度は実質的に未稼働となりました。

#### ②カリキュラム・学習指導

I類特別選抜コースの数学・理科強化に向けたR8年度カリキュラム編成を完了しました。放課後学習指導体制については、先進校の視察を経て、外部支援業者の選定を次年度に向けて絞り込みつつあります。また、校内予備校として外部講師による受験講座・小論文講座も開講しました。一方、文章作成・相互添削活動は媒体の質の問題から未実施となり、NewsPicks活用・ディベート導入も来年度のカリキュラム改訂と連動させた協議継続にとどまっています。

#### ③外部連携・グローバル

福工大との連携による高圧実験・i-STEAM、工業系学科2年生81名の延べ252日にわたるマルチインターンシップ、パナソニックやセガとの連携授業など充実した実績を積み上げました。グローバル教育の取組では、タイや台湾の高校とのオンライン交流・合同授業、パキスタン・韓国・ニュージーランドからの留学生の受け入れ、海外特別講義・箱崎モスク訪問など多様な取組を展開し、R8年度からのイギリス短期研修の導入も決定しました。

#### ④進路指導

年内入試対応では、小論文・面接対策講座を年3回実施し、大学との連携も強化しました。就職希望者へは、個別面談・模擬試験・企業見学・入社前サポート研修を計画通り実施し、民間企業・公務員あわせて内定率100%を達成（就職者総計68名）しました。

### (3) 評価・課題認識

#### ①教員育成・組織基盤

メンター制・2人担任制は組織的人材育成の基盤として機能し始めており、初年度としては評価できます。しかし、IR専門部署の未稼働は、データに基づく学校改善を進めるうえでの根幹的課題であり、深刻に受け止める必要があります。教職協働についても、業務移管に対する固定観念が根強く、定着には継続的なマインドセット転換の働きかけが求められます。

#### ②カリキュラム・学習指導

コース別カリキュラム編成や放課後補習体制の整備は着実に前進しています。一方、思考力・表現力・読解力育成に向けた複数施策が軒並み着手・協議段階にとどまっており、生徒の学力向上に直結する取組の実質化が急務となります。土曜講座の受講者・開講数の少なさ、工業系学科の生徒への補習開講不足も引き続き解決すべき課題です。

#### ③外部連携・グローバル

インターンシップ・産学連携・留学生受け入れなど外部との接続は着実に広がっており、生徒の学びに実質的な深みをもたらしています。一方、大学教授による特別授業の実施や連携プログラムを通じて得られた力の可視化・評価が不十分であり、成果の言語化と次の取組への接続が課題です。グロ

ーバル教育については、交流が英語授業に偏る傾向があり、他教科・他領域での異文化交流の拡充が望まれます。

#### ④進路指導

就職・進学ともに高い実績を収めており、個別指導と外部連携を組み合わせた本校の進路指導体制は有効に機能しています。一方、年内入試への対応力向上に向けて教員の情報収集・研修参加が不足しており、進路指導力の組織的底上げが今後の重点課題です。

### (4) 課題達成方策等

#### ①教員育成・組織基盤

IR 専門部署の稼働については、担当者の授業コマ数を 10 コマ前後に軽減し、週 10 時間程度のデータ分析時間を確保するとともに、ネットワーク非接続の専用 PC とハードディスクを整備することで来年度の確実な始動を実現します。教職協働は、業務移管の具体的事例を段階的に提示しながら、管理職と主任主事との対話を継続し、推進します。

#### ②カリキュラム・学習指導

思考力・表現力育成については、High School Times に代わる別媒体の検討を進めつつ、NewsPicks ・ディベート活動を総合的探究の時間に統合できる制度設計を令和 9 年度カリキュラム変更と連動させて推進します。土曜講座・放課後補習については外部支援業者への委託を軸とした再設計を行い、全科・コースへの均等な提供を目指します。

#### ③外部連携・グローバル

連携プログラムを通じて得られた力をスキル・知識・態度の観点で評価・可視化し、次年度の取組改善に活用します。英語以外の教科での異文化交流の機会を積極的に開拓し、学校全体でのグローバルマインド醸成を図ります。

#### ④進路指導

各学年から少人数の教員を選定して大学説明会・情報交換会への参加を促し、意識の高い教員を中心としたコミュニティを徐々に広げることで、学校全体の進路指導力の底上げを図ります。

### (5) 課題達成後の未来の姿

上記の取組が実を結ぶことで、本校はデータに基づく自律的改善サイクルが日常に根付いた学校へと進化します。

生徒にとっては、思考力・表現力・探究力を体系的に育む授業、豊富なグローバル体験・産学連携・インターンシップ、きめ細かな進路指導が機能することで、どのコースの生徒も自分の強みと進路を、確信をもって語れる卒業生へと成長します。本校はこうした教育実践を通じて、地域から信頼され選ばれる高校としての存在感をさらに高めていきます。

教員にとっては、一人ひとりの専門性と連携力が高まり、メンター制・2 人担任制・階層別研修が有機的につながることで、経験年数によらず全教員が成長し続ける組織文化が形成されます。業務移管の定着と働き方改革の実現により、教員が生徒の学びと向き合う時間が確保され、教育の質と働きがいと同時に高まる職場環境が実現します。

高校の大学等合格実績・就職状況

国公立大学	R6	R7	R8
九州大学	1	5	9
九州工業大学	14	7	13
福岡教育大学	4	7	5
佐賀大学	12	10	12
長崎大学	6	4	8
熊本大学	5	9	5
大分大学	1	4	2
宮崎大学	5	2	1
鹿児島大学	3	3	7
琉球大学	0	1	2
鹿屋体育大学	0	0	1
北見工業大学	0	0	1
北海道教育大学岩見沢校	0	1	0
室蘭工業大学	0	1	1
東北大学	0	0	1
山形大学	1	0	0
茨城大学	0	0	1
筑波大学	1	0	0
宇都宮大学	1	0	0
東京外国語大学	1	0	1
富山大学	0	1	0
信州大学	0	1	0
山梨大学	0	1	0
岐阜大学	1	0	0
静岡大学	0	1	0
名古屋大学	0	0	1
大阪大学	1	2	1
大阪教育大学	0	2	0
神戸大学	1	0	0
鳥取大学	1	0	0
岡山大学	1	0	0
広島大学	4	0	3
山口大学	1	0	3
愛媛大学	0	3	2
高知大学	0	1	0
北九州市立大学	12	14	14
福岡県立大学	1	0	1
福岡女子大学	1	3	3
長崎県立大学	0	1	2
熊本県立大学	0	0	2
大分県立看護科学大学	0	1	0
沖縄県立看護大学	1	0	0
名桜大学	0	2	4
釧路公立大学	1	0	0
東京都立大学	0	0	1
横浜市立大学	0	1	0
福井県立大学	1	0	0
静岡文化芸術大学	0	1	0
大阪公立大学	0	1	0
公立鳥取環境大学	1	0	1
岡山県立大学	0	1	0
県立広島大学	1	0	1
広島市立大学	0	0	1
福山市立大学	0	0	1
山陽小野田市立山口東京理科大学	3	2	3
下関市立大学	1	3	0
山口県立大学	0	2	0
高知工科大学	0	4	3
国公立大学計	88	102	117

公立短期大学	R6	R7	R8
大分県立芸術文化短期大学	0	0	3

準大学等	R6	R7	R8
防衛医科大学校	3	0	1
防衛大学校	2	6	6
航空保安大学校	1	0	0
水産大学校	0	0	1
九州職業能力開発大学校	12	9	12
川内職業能力開発短期大学校	0	0	1
北海道職業能力開発大学校	1	0	0
関東職業能力開発大学校	0	1	0
国公立大学・準大学等計	107	118	141

私立大学	R6	R7	R8
早稲田大学	0	1	2
慶應義塾大学	0	2	0
上智大学	0	0	1
東京理科大学	2	2	9
明治大学	0	4	7
青山学院大学	1	2	3
立教大学	0	1	1
中央大学	6	2	5
法政大学	4	5	5
関西大学	2	4	10
関西学院大学	5	17	12
同志社大学	5	9	8
立命館大学	14	34	26
札幌学院大学	0	1	0
北海道医療大学	0	2	0
東北医科薬科大学	0	1	0
日本ウェルネススポーツ大学	0	1	0
流通経済大学	0	1	1
国際医療福祉大学	1	6	6
育英大学	0	1	0
上武大学	0	2	0
高崎健康福祉大学	1	0	0
駿河台大学	0	1	0
東京国際大学	2	0	1
文教大学	0	2	0
淑徳大学	0	1	0
千葉工業大学	1	4	12
桜美林大学	1	0	4
大妻女子大学	0	4	1
北里大学	1	0	0
工学院大学	1	0	5
國學院大学	0	1	3
駒澤大学	5	4	6
芝浦工業大学	1	3	1
昭和女子大学	0	0	1
白百合女子大学	0	0	1
成蹊大学	0	0	1
名城大学	0	0	1
専修大学	0	2	0
創価大学	0	0	2
大正大学	0	0	1
大東文化大学	4	0	0
拓殖大学	0	0	2
玉川大学	2	1	2
津田塾大学	0	1	0
帝京科学大学	0	2	0
帝京大学	6	2	3
東海大学	3	3	12
東京音楽大学	0	0	1
東京電機大学	0	0	11
東京農業大学	3	2	1
東洋大学	0	2	7
日本歯科大学	0	1	0
日本社会事業大学	1	0	0
日本獣医生命科学大学	0	1	0
日本体育大学	1	0	1
日本大学	1	6	5
明治学院大学	2	1	3
立正大学	0	0	1
神奈川大学	1	1	2
鎌倉女子大学	1	0	0
関東学院大学	2	2	3
金沢工業大学	1	2	4
山梨学院大学	0	0	2
松本歯科大学	0	1	0
朝日大学	0	1	0
愛知学院大学	0	1	1
大同大学	1	0	0
中京大学	1	0	0
同朋大学	2	0	0
名古屋外国語大学	2	1	0
名古屋学芸大学	0	2	0
名古屋芸術大学	0	0	1

私立大学	R6	R7	R8
日本福祉大学	5	2	3
人間環境大学	0	1	0
名城大学	2	1	2
大谷大学	0	0	2
京都産業大学	13	0	16
京都女子大学	4	0	0
京都精華大学	1	2	0
同志社女子大学	1	2	0
佛教大学	0	1	2
明治国際医療大学	0	0	1
龍谷大学	4	3	16
追手門学院大学	2	0	2
大阪経済大学	0	1	2
大阪芸術大学	3	0	1
大阪工業大学	0	1	0
大阪国際大学	0	0	1
大阪産業大学	15	0	0
大阪成蹊大学	0	0	3
大阪体育大学	3	0	0
大阪電気通信大学	0	0	3
関西外国語大学	5	1	1
近畿大学	30	26	50
阪南大学	0	1	16
桃山学院大学	2	0	5
大和大学	0	0	2
芦屋大学	0	1	0
関西福祉大学	0	1	0
甲南大学	0	0	2
神戸学院大学	1	0	8
神戸女子大学	0	1	0
園田学園大学	0	1	1
兵庫医科大学	0	2	0
武庫川女子大学	0	1	0
天理大学	2	0	0
奈良大学	0	1	1
岡山理科大学	0	0	7
環太平洋大学	0	0	1
比治山大学	2	0	0
広島工業大学	3	1	1
広島国際大学	2	0	5
福山大学	1	2	1
安田女子大学	1	0	0
至誠館大学	0	0	1
東亜大学	2	2	0
梅光学院大学	1	0	2
雲林科技大学	0	1	0
テンプル大学	1	0	0
シドニー工科大学附属カレッジ	0	1	0
東京通信大学	0	1	0
近畿大学(通信教育課程)	0	1	0
北海道情報大学(通信教育部)	0	0	1
ZEN大学	0	0	1

私立大学(九州地区)	R6	R7	R8
福岡工業大学	1,257	961	1,051
西南学院大学	64	56	78
福岡大学	206	202	216
九州産業大学	110	90	149
九州栄養福祉大学	1	3	5
九州共立大学	9	7	10
九州国際大学	7	3	14
九州情報大学	0	2	0
九州女子大学	2	5	5
久留米工業大学	4	4	8
久留米大学	36	10	31
産業医科大学	6	2	2
純真学園大学	7	3	10
西南女学院大学	4	1	3
聖マリア学院大学	1	1	2
第一薬科大学	1	0	4
筑紫女学園大学	18	3	8
中村学園大学	23	16	31
西日本看護医療大学	0	0	1
西日本工業大学	2	1	1
日本経済大学	6	3	3
日本赤十字九州国際看護大学	4	3	7
福岡看護大学	1	2	0
福岡国際医療福祉大学	7	5	14
福岡国際音楽大学	0	0	3
福岡歯科大学	1	2	0
福岡女学院看護大学	3	7	9
福岡女学院大学	31	10	39
令和健康科学大学	8	9	5
西九州大学	0	1	1
長崎外国語大学	0	0	1
長崎国際大学	1	4	2
長崎総合科学大学	0	0	4
九州ルーテル学院大学	0	0	1
熊本学園大学	0	0	3
崇城大学	1	3	5
日本文理大学	0	2	3
別府大学	0	0	3
立命館アジア太平洋大学	5	6	8
九州医療科学大学	0	0	1
志學館大学	0	0	1
私立大学計	2,019	1,639	2,100
大学計	2,126	1,757	2,241

短期大学	R6	R7	R8
福岡工業大学短期大学部	40	42	75
その他の短大	17	9	22
短期大学計	57	51	97

### 高校の就職状況

就職状況	就職希望者	内定者	内定率
R7	69	69	100%
R6	53	53	100%
R5	45	45	100%